明治四十一年二月二十日發行
（明治二十年十一月本會創立）

# 婦人衛生雜誌

第二百十九號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

# 婦人衞生雜誌

## 第貳百拾九號目次

## ○會　告

本會例會は都合により三月及四月休會致候

大日本婦人衛生會

## 總會及懇親會豫報

本會総會は來る三月廿八日(第四土曜日)開會の豫定に有之候に就ては懇親會を兼ね総會相開き候間豫め御了承相成度此段稟告致し置候也

右會場及び時日等は追て御報可申上候

明治四十一年二月二十日

大日本婦人衛生會

## ●會　告●

今般都合により本會事務所を左記の處へ移轉す

東京市麴町區富士見町一丁目三十二番地

**私立大日本婦人衛生會**

明治四十一年二月二十日

會計整理の都合も有之候間會費未納の御方は此際本會事務所へ宛何卒至急御送附被成下度候也

本會の振替貯金口座番號**一〇六〇〇番**に付右番號を御承知の上所在の郵便局に於て該用紙御請取被下指定の欄内へ送金高、拂込人住所氏名、及び加入者住所氏名（即ち本會）等を記入し同時に金圓御拂込相成候はゞ直ちに本會へ送金無料にて相屆き且つ途中紛失及び盜難の憂ひも無之候又該用紙裏面に通信文欄有之候間他に用事ある節は何なりとも御記入差支無之候、右の如く拂込人に取りては安全、輕便、經濟等一擧にして種々の利益ある便法に付自今該法を御利用被成下度此段會員諸姉に稟告致候也

○本年一月發行の本誌には會員諸姉の御便宜を謀り振替貯金拂込用紙を添付致置候間そを御用ゐ被下度候

○爲替御送附の節は本會事務所宛にて麴町區富士見町郵便局へ御振出しを乞ふ

# 私立大日本婦人衛生會

## 設立趣意書

凡そ人として此世におりては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら擧るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回同會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講說談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸姉に告げ其贊成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

## 私立大日本婦人衛生會規則摘要（明治廿二年十二月改正）

第一條　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會一般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會するを得●第四條　入會の節には姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（交付手續は末に詳なり）入會後轉所等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす●終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを認みたるに節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を推し皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る　幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め閑遊會を開くことあるべし●第十七條　例會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑託し會員をして隨意臨席せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々員に誘致し講義演說等を傍聽せしむるを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會々長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付する[illegible]規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を限く[illegible]得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●第卅條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配付すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を簿冊に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべし但地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證を送付すとしても別に返信料を添へらるべし（郵券は一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を發出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込築土八幡町郵便取扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を催促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目廿二番地　私立大日本婦人衛生會

# ○役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃　周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子

幹事（いろは順）
鳩山春子
仝　羽田三緒子
仝　岡田德子
仝　高木かう子
仝　山本多穂子
仝　松平芳子
仝　三浦教子
仝　石川貞子
仝　岩下ゆか子
仝　濱田捨子

評議員
長谷川仲子
仝　仁禮壽賀子
仝　西升子
仝　穂積歌子
仝　土肥多越子
仝　緒方悦子
仝　岡山とし子
仝　小川學子
仝　男爵夫人　加藤鈴子
仝　片山龜子
仝　吉武輝枝子
仝　丹波貞子
仝　高橋寿子
仝　田村きよ子
仝　男爵夫人　南部展子
仝　中濱芳子

評議員　子爵夫人　山口良子
仝　松井正子
仝　岸延子
仝　三宅藤子
仝　宮本樂子
仝　宮下咲子

●支會　新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

## 本會特別賛成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　●入澤達吉君
理學博士　●飯島魁君
ドクトル　●伊澤信平君
●色川圀士君
醫學博士　●伊東祐彦君
ドクトル　●飯盛挺造君
醫學博士　●伊藤隼三君
理學博士　●石川千代松君
赤十字社內科醫　●岩井禎造君
醫學士　●石原久君
醫學士　●磐瀬雄一君
醫學士　●石原喜久太郎君
貴族院議員　●濱尾新君
醫學博士　●濱田玄達君
法學博士　●鳩山和夫君
東京　●紋原彌四郎君
醫學博士　●芳賀榮二郎君
●長谷川泰君
新潟　●長谷川一詮君
小兒科　●小原賴之君
醫學博士　●岡田榮吉君
醫學博士　●林春雄君
醫學博士　●佐藤達次郎君
醫學博士　●緒方正規君
歩兵中佐　●堀内文次郎君
醫學博士　●土肥慶藏君
醫學博士　●岡田和一郎君

醫學士　●大澤謙二君
醫學博士　●大西秀治君
醫學博士　●大澤岳太郎君
一等藥劑官　●恩田重信君
醫學士　●若杉喜三郎君
醫學士　●渡邊房吉君
男爵　●加藤弘之君
醫學博士　●加藤照麿君
醫學士　●賀古鶴所君
醫學博士　●河本重次郎君
醫學博士　●片山國嘉君
醫學士　●川上雅量君
醫學士　●柳田龜一郎君
醫學博士　●金杉英五郎君
醫學士　●笠原光興君
醫學士　●唐澤光德君
醫學士　●河野衞君
醫學博士　●高橋順太郎君
ドクトル　●高山紀齋君
醫學博士　●高木兼寛君
法學博士　●高木豐三君
醫學博士　●田代義德君
新潟　●田代亮助君
男爵　●高崎正風君
醫學士　●竹中成憲君
醫學士　●高川耕安君
新潟醫學專門學校長　●高橋五郎君
藥學博士　●丹波敬三君
醫學士　●高橋貞碩君
藥學博士　●田原良純君
醫學士　●田村光顯君
醫學士　●久保豬之吉君
醫學士　●米山彥郎君
二等軍醫正　●凪野孫光君
醫學士　●宮本叔君
三等軍醫正　●樋井忠國君
大日本教育會長　●辻新次君
理學博士　●坪井正五郎君
醫學博士　●長與稱吉君
男爵　●南部璽男君

藥學博士　●長井長義君
醫學博士　●遠山椿吉君
醫學博士　●中濱東一郎君
醫學士　●黒田玄通君
醫學士　●栗本庸勝君
海軍中佐　●小笠原長生君
醫學士　●村松紙三君
醫學博士　●隈川宗雄君
醫學博士　●栗本東明君
醫學士　●山田鐵三君
醫學士　●山田弘倫君
醫學士　●山根正次君
岡山　●山川春二君
衛生試驗所技手　●丸山長四郎君
ドクトル　●松山陽太郎君
ドクトル　●此木信六郎君
盲啞學校長　●小西信八君
廣島　●小泉貫君
醫學士　●古川榮君
東京　●布施正顯君
南滿洲鐵道總裁　●後藤新平君
元東京大學教授　●エ・ベルツ君
醫學士　●中野榮君
文部書記官　●岸田勇吉君
醫學士　●芳田豐作君
醫學士　●寺田織尾君
子爵　●秋元興朝君
前軍醫總監　●足立寛君
ドクトル　●新井古芳君
ドクトル　●富士川游君
高崎醫長　●土谷全夫君
産科婦人科　●水原漸君
ドクトル　●久保田[illegible]君
醫學博士　●佐々木政吉君
醫學士　●淺田快君
醫學博士　●朝倉文三君
ドクトル　●朝山義六君
醫學博士　●吾妻勝剛君
醫學博士　●佐藤三吉君
醫學士　●櫻井郁二郎君

ドクトル　●佐伯理一郎君
醫學博士　●榊順次郎君
醫學博士　●榊保三郎君
醫學士　●佐藤得齋君
醫學博士　●櫻井恒次郎君
醫學博士　●桐淵鏡次君
醫學士　●北村綱造君
醫學博士　●北島多一君
ドクトル　●北川乙二郎君
醫學博士　●木下正中君
醫學士　●北島小太郎君
醫學博士　●北里柴三郎君
醫學博士　●三浦守治君
醫學博士　●三浦謹之助君
小兒科專門　●宮本仲君
理學博士　●箕作佳吉君
醫學博士　●三島通良君
醫學博士　●三宅秀君
醫學博士　●三輪信太郎君
伯爵　●土方久元君
醫學士　●島村俊一君
醫學博士　●弘田長君
ドクトル　●日高昂君
ドクトル　●須田卓剛君
醫學士　●道川德君
醫學博士　●木村德衞君
醫學博士　●森林太郎君
醫學士　●笹川三男三君
醫學士　●波多野惇君
醫學博士　●吳秀三君
ミス　●リッデル
ミス　●ヒュース
ミセス　●ロ[illegible]ア
ドクトル　●菊池[illegible]一君
醫學士　●橋本[illegible]武郎君
醫學士　●鳥居春洋君
ドクトル　●土田卯三郎君
ドクトル　●佐藤運雄君
ドクトル　●西山信光君
醫學士　●澤崎寛制君

## 講演

# 傳染病の皮膚病

醫學士　百瀬玄溪君講演

私は斯う云ふ會に出て御話することは不馴れてありますから昨日富士川さんに御目に懸りまして此迄の例もありませうから伺ひました處皮膚の傳染病に付て御話したら宜からうと云ふことてございました皮膚病の傳染するものと傳染しないものと此二通りの御話をすることも困難でございますが、傳染するものゝみても僅かな時間ては御話いたし兼ねますが先づ傳染するものゝみの御話をすれば他は傳染しないものと御考へ下さつて差支ないと思ひますから今日は皮膚の病氣て傳染するものゝみを御話しやうと思ひますが、平生我々の仲間て話す言葉を其儘用ゐますると御解り難くからうと思ひますからそれよりは寧ろ畫を御覽下すつた方が最も御記憶に存することゝ思ひまして此處に畫を持參いたしました。

皮膚の病氣と申しましても一々御話することは出來ませぬが稀れに在る病氣は省きまして成るべく通常御覽になつても分るやうなもので、又其内には斯う云ふものは危險であるとか或は斯う云ふものは生命にも關係すると云ふやうな主なるものゝみに付て又病氣の箇所に依て御目に懸けるに困難なものがありますから成るべく御目に懸けて差支ないもので敎室に在るものを持て參りましたのてありますが、中には畫のないのもありますから左樣御承知を願ひます。

皮膚にも色々傳染する病氣がありますが先づ第一に寄生蟲から起る皮膚の傳染病、即ち寄生性の皮膚

病、第二は永い間かゝつて病氣が現はれて來る皮膚の慢性傳染、或は急性のチプスであるとか麻疹のやうな傳染病の爲に起る皮膚の濕疹、此四ツの主もなものゝみを御話しやうと思ひます、それから御目に懸けます書の中には隨分穢なく出來たものがありますから御覽になつても不愉快な感じが起るだらうと思ひますがさう云ふものを省きますと御目に懸けるものが僅かになりますから若し面白くない御感じがあるならば直ぐ御次へ御廻しを願ひます。

第一に寄生蟲に依て起る皮膚の傳染病、即ち寄生性の皮膚病、此内に二ツ種類がありまして下等の動物から起るのと、下等の植物から起るのがございますが、先づ下等の動物から起るものを御目に懸けることに致します、是は通常能くある病氣でございますし御話も御聞きになつて居られませうから御分りてございませうが、第一は疥癬、是は小さな下等の動物が原因でありまして皆様が入浴なさつて御洗ひになると身體から絶えず脱れまする垢は皮膚の最も上の層でありますが、其最も上の層へ段々穴を堀るやうに喰ひ込むで深いのになると隧道のやうに斜とか或は横に一センチメートル位になります、さうして其中の奥の處に蟲が潜むで居て絶えず喰ひ込むで皮膚を刺戟しますから疥癬を病むで居る人が痒みを感じて之を掻きますと皮膚に傷が付く、其傷いた處へ又た他の黴菌が這入てさうして膿を持つことになります、其書は是であります(書を示す)此書は御覽の通り手が書いてございますが、斯う云ふ風に黑く筋の付いたやうな處が蟲の隧道を堀つた處て、此處(書を指す)は蟲が附いてから水腫れのやうな中に膿の溜つた處が出來て居る、斯う云ふ人が側に居つたならば餘程御注意にならねとチヨツト觸れましても直ぐ傳染ります、此病氣は別に生命には關係しませぬけれども隨分不愉快なものでございますから御注意を願ひます、次は南京蟲に刺されまして起る皮膚病でございますが、南京蟲はナカ〳〵傳播の早いものでありまして初め支那人が持て來たものですが今

日本の開港場は皆擴つて居りますし東京でも隨分盛てございます、殊に近頃は支那人が大分多く入込むで居りますので其人々の荷物にても着いて來たものでせうが神田、本郷、牛込邊には餘程擴つて來ました、是も馴れゝば左程困難はないやうですけれども初めて刺された人には隨分發熱もしまするし、それが因になつて蓐に就くやうな重いのもございます、其刺した箇所を見ますると眞中に小さな咬むだ痕がありまして其周圍が小指の爪の大サ位赤くて少し高くなつて居る、さうして初めは痒みを覺え、それから非常な痛みを感じて來る、中には其部分が崩れまして潰瘍を造ると云ふのもあります、此蟲は持て參りませぬでしたが蟲としては極く小さなものでございまして恰當草鞋のやうな形をして居ります、其手足を除いて身體だけですと胡麻位な大サて銅のやうな色でございます、是が一度這入りましたならば餘程困難なもので私も嘗て下關から長崎へ船で參りました時に僅か十一時間位な航海てしたから左程長い間でもありませぬし別に眠つたと云ふ程でもなかつたですが南京蟲に取付かれまして長崎に參りまして餘程痒みを感じましたから見ました處が咬むだ痕がスッカリ判つて居りまして、此蟲が家に這入つたならば其家を燒き棄てなければ絕えないと云ふ程て、現に病院などでも寢臺に此蟲が附きますと其寢臺は燒き棄てゝ了ふか或は寢臺を入れる位な大きな風呂桶を拵へて百度位な熱度で長い間煮なければ死なぬと云ふ位なものでございますから子供達や御婦人のやうな皮膚の弱い方などは此蟲に刺されますと隨分ひどくなります、マア斯う云ふ蟲に取り附かれましたならば其時の衣服でも燒き棄てるのが最も都合がよいやうです、さうでも爲なければ到底一度付いたらそれが取れることは難かしい、是も一ッの下等動物の寄性より起る皮膚の病氣でございます、此外に穢ない御話ですが虱の類も皆此種類のものですが是は別に御話いたしませぬ、次に下等の植物から起る寄性蟲、即ち植物性の寄性症でございますが、

第一に御目に懸けるのが黄腺、是は誠に忌やなもので多く毛髪に出來る病氣てありまして、此處に御列席の方々には無論斯う云ふものが來ることは殆どない、大抵下等の裏店などに住むて居る者に多い、東京ては四谷の鮫ヶ橋とか此夏中水に漬つた淺草の穢ない長屋などの小供の遊むて居るのを見ると髪の毛に黄い、恰當皿を倒さにしたやうな眞中の處が凹みまして縁の處が持ち上つて居る、大サは小指の爪の半分位から爪位になつて居る、是が附きますとナカ〳〵根絶やしすることは難かしいので段々髪の毛に喰ひ込むて其箇所が破れまして、それが癒ると痕がヒッツリになつて、一度之に罹つたならば其處だけ禿げになつてさうして赤いヒッツリが出來ます、是に付ては何誰も御記憶があるか知れませぬが二年程前新聞てやかましかつた板橋の小學校生徒全體を惡い皮膚病が侵かして頭からは穢ない膿汁が出て居ると云つて大分やかましかつたてす、其當時私がそれを調べに參りまして全校の生徒を診ましたが多分此病氣てあらうと思つて參りました處が次に御話する病氣てあつて是てはなかつたてす、唯其中に二人だけ此病氣に罹つて居つて一人は男兒、一人は女兒てあつた、其女兒は餘程級も進むて全科を卒業する位てあつたけれども此病氣に罹りました爲に鬢の處が禿げてさうしてヒッツリになつて、婦人としては大切な髪が生へない、生へないばかりてなく、それから段々擴つて髪の全部が禿げる、禿げた痕がヒッツリになる爲に生涯他家へ嫁することが出來ないと云ふので校長さんに縋つて獨身て生涯を送るにはどう云ふ仕事をしたら宜いか敎へて下さいと言つて相談したと云ふことてす、さう云ふ忌な病氣てすから子守などを御傭になる際には餘程御注意なさらぬと一度此病氣が小供に傳染ると小供の頭の全部てなくとも一部分はさう云ふ忌な病氣が出ますから御注意が肝要と思ひます。

次は寄生性匍行疹(白癬)てあります、是は壽を御目に懸ませぬても平素隨分御覽になつたことがあら

うと思ひますが黴から起る病氣でございます、是は頭にも全身の皮膚にも來る、殊に頸の廻りに能く來るのであつて、頭に出るのと皮膚に出るのとは形が違ひます、通常頸の廻りに出るのは俗に田蟲と稱するものですが是も下等の植物から起る寄生蟲でありまして皮膚に附いて起るのであります、畫を御目に懸けまする(畫を示す)此ポツ〳〵した水腫れのやうなものが幾ツも塊つて皮膚より少し高くなつて恰度球のやうな形で端が赤くなつて、さうして端が段々擴つて行く、是は皆大學に參ります病人を畫工が寫生したものであつて想像て書いたものではありませぬ、此病氣は多く衣服の手入れが惡いと來るもので土用越をするとか或は衣服を干すには年に三回干さねばならぬといふ話てありますが此畫の人は冬衣服を着まして梅雨頃になりまして衣服の垢付いた處に黴か生へたのを其儘簞笥に入れて置き、次の冬になつて着る、さうすると其衣服殊に襟などの垢付いた處から寄生蟲が生いて病氣を起したものでございますから餘程注意して垢の付いた處は能く日光に曝すとか洗濯するとかしないと隨分斯う云ふものが起ると思はねばならぬ、此畫は端が段々廣くなつた處を示したものでありまして西洋人の方は綺麗に出來て居りますが是れ(他の畫を示す)と比較して御覽なさい、それは皮膚に出たのを示したのでございますが、頭に出るのは先刻申上げた板橋の小學校でやかましかつたものです、是も市中を歩きますと小僧さんなどが髮の毛に白いものを附けて居るのを見受けますが一度是が附きますとナカ〳〵癒らない、私共の友人などが小供を連れて參りまして、どうか早く癒して貰いたいと言はれますがナカ〳〵一年や二年かゝつたのでは容易に癒りませぬ、一度癒すのは容易うございますが、髮が少し延びて來ると復た出るから餘程癒し難い、小學校へ行て見るとどの小學校でも其級の内に五人や六人は必らずある、さう云ふ子供と一緒になつて運動場て相撲取ても始めると髮の毛が一本附いても傳染るから餘程氣をつけなければな

らぬ、是は色々持て參りましたから御覽下さい（各種の畫を示す）それから少し年とつた者で顏に出たのがある、又頭の禿げたのがある、又幾らか皮膚が光つて見えるのがある、是は毛根が大分弱つて來たのですが此儘にして置けば無論禿になる、けれどもモウ少し注意をしましたならば或は舊の通り生へるかも知れませぬ、是などは（畫を示す）あまり酷ど過ぎて氣味が惡るい、此病氣はドノ小學校へ行つて見ても澤山あります、現に私の診察所近くの濱町小學校に小供を送りながら行て見ました處が六百人の生徒の內で女の兒には殆んどない、是は家庭で髮に注意する爲めてあらうと思ひますが男女合せて六百人中て其十分一以上は此病氣に罹つて居ります、校長なども自分の學校だけかと思つて他の學校を視た處が何處へ行つて見ても其位は此病氣に罹つて居ると云ふことてありまして先づ小學校の生徒の五％—一〇％位は必らずあると云ふても宜い位てす、尙ほ此外にハタケと云ふものがある、冬になると荒れて芽が吹いたやうになつて居るのがある、ハタケも矢張是てすから彼樣な小供の毛を取りて培養すると立派な絲のやうな形の植物が出て來る、此外爪にも出る、爪に出るのは恰當牡蠣のさゝくれのやうなものてす畫を示す、是も矢張癒り難いものでナカ〳〵一ヶ月や二ヶ月ては癒りませぬ、爪が一度脫れて復た新らしいのが出來る、それが段々に繰返して終には不完全な爪が殘るやうになります、次には頑癬と云ふのがある、是は總て身體の內で濕り氣の多い處に出る、殊に御目に懸けますのは其內でも尤も酷いもので唯今御目に懸けました風癬のモウ一ツ頑固な形をして居ります、是も餘程痒いてす、併し是は見た處ては忌な色や忌な形をして居りますけれども却て癒り易いのでございます、それからマダ其外に癜瘋、通常黑ナマヅと云ふものがある、此ナマヅは大層意味が廣いやうですけれども黑ナマヅと云ふものです、是は主もに汗ナマヅと云ふて汗の出る時などに能く出るもので、大抵爪の頭程位な大サて、痒みがありま

す、それが一緒になりますと、見た處ナカ〳〵氣持の惡いやうな色をして居ります、是は(毒を示す)色の白いのと黑いのと形の變つて居る處を示したものであります、併し此病氣は癒すのに應し易いもので左程心配のものではありませぬ、次には紅色の陰癬でありますが是も矢張濕り氣のある處に出るもので今御目に懸けました頑癬よりは極く輕い形をして居ります、是は毒を持て參りませぬが斯う云ふものは大層癒り易いものでございます、矢張風癬の種類と思つて下されば宜い、次にビエドラと云ふて髮に來る病氣がある、是はさう餘計ないやうですけれども時々見ますが恰當髮を見ると小さな虱の卵(笑聲起る)のやうに見えます、髮に節が出來て少し白い色があつて鳥渡見ると虱の卵のやうです(笑聲起る)是は何しろ皆取て了ふことはナカ〳〵困難ですけれども少し注意すると段々取れます、さうして節の處から折れますが、通常髮の毛の折れる病氣とは違ひます、其外皮膚に出る斯う云ふ種類の傳染病で皮膚放線狀菌病とか或は腋毛の寄生蟲もありますけれども斯う云ふものは極く稀れなものであるから別に御目に懸けませぬ。

それから第二の種類になつて居る皮膚の慢性傳染病、是は誠に忌な病氣でありまして總て病氣は急性のものよりは慢性のものが忌で又癒り難いものですが皮膚から起る病氣も斯う云ふ慢性のものは誠に癒し難いもので又形も忌なもので、さうして其多くは肺を侵す肺結核の原因である處の核結菌に依て起る皮膚の病氣がある、此病氣はベルッ先生などは日本には無いと言はれた位ですが土肥博士が大學で講座を開かれてから初めはアマリありませぬでしたが年を逐ふて殖えて來て今日では無い處ではない、ナカ〳〵皮膚の結核が多い、さうして其種類は幾つもありまして形は異れとも病原は皆一樣である、西洋に較べますと少ないやうですが無い處ではないナカ〳〵ある、是は肺とか他の內臟が結核に侵されまして來るのではなく、外の處は健康であるのに、皮膚

のみに來るのもあります、夫の病氣は六ツ程の種類がございますが一々さう云ふことを區別して御話せぬても畫を御覽下すつたら斯う云ふものが結核て重い病氣てあると云ふ想像が附きませう、隨分斯う云ふ者に近付きにならぬ方が宜しうございますから大體御覽になつたら早く次へ御廻しを願ひます（笑聲起る）（畫を示す）是は急には死にませぬが段々ひどくなつて來ると他の病氣を併發して死にます、是は矢張結核黴菌が附くのて傳染らなければ起りませぬ、唯皮膚の結核の都合のよいことは成るべく早く治療なされば皮膚だけてすから其部分を取去て了へば癒ると云ふ樂みがある、それから瘰癧と申しまして頸の廻りが腫れて淋巴腺が腫れまして、それが酷くなると膿が出ます、又それが癒つて再び其處から始まるのがある、是なども多く瘰癧の質の人に多い早く處置されば案外癒り易いものです、それから又さう云ふ處へ出ないて矢張結核の關係て起る皮膚の病氣てすから皮膚の上に手足の區別なく斯う云ふやうにポツ〳〵した赤いものが出る（畫を示す）是も矢張結核て出たのか或は蟲から出たのか、まだ判ませぬが來る處は斯う云ふ風に出るてす、まだ是に屬するものは澤山ありますが一々御話するより畫を御目に懸けます（數葉の畫を示す）

次に結核とは違ひますけれども矢張是も黴菌から出る菌狀皮膚息肉症と云ふて日本にはまだ餘計にはない、斯う云ふものは大抵癒ることはむづかしい、今申上げたものは餘程忌なものばかりてすけれども唯小さな間に治療をすれば癒るだけの樂みがありますからさう云ふ病氣に罹つたならば一日も早く處置することにしたら宜からうと思ひます。

それから第三には棒のやうな形をして居る黴菌より起る傳染性のもの是には色々なものがありますけれどもアマリ他に多くないから申上げませぬが例へば鼻硬腫と云ふて鼻に赤い小サな瘤のやうなものが出來まして常通市中て見かけるやうな鼻に赤く紫色をしたものとは違ひますが、先づアレと思へば間違

ひありませぬがさう云ふもので終には上唇の邊とか口の邊までも擴がる病氣がある、此等は異例ですから別に申上げる程のこともない、其外水癌と云ふものがある、是は時々ありますから注意せねばならぬが二三年前同じ日に小供を二人連れて參りまして二人とも死にましたが、是は（書を示す）其來た日に寫生したものですが、小供に多くは麻疹などに罹つた後に出る、初め皮膚に赤いやうなものでポッとしたものが出てそれが壞はれて段々深く進むで唇を拔いて、開いた所から歯が見える是の癒るのは難かしい、子供を御持ちの方は能く御注意下さらぬと是は上下の區別なしに來る病氣ですから御注意が肝要であります。

次には此席で御話するのも忌はしいことですが彼の癩病でございますが是は實に忌やな病氣でありますが、内務省で調べたものを見ますると我邦で癩病に罹つた者の系統を引いて居る家族として居る者が兎に角百万人近くある、それ故に輕々には看過されない、隨分私共が市中を歩きますと怪しいと思ふ人が非常に多い、現にさう云ふ者が食物の商賣をして居る、或は皆さんの御使用になる品物の内職をして居る、私共の知つて居るだけでも菓子屋をして居る者、寫眞屋をして居る者、今は無くなつたが卷莨を卷いて居つた者、楊子を削つて居つた者がある（笑聲起る）斯う云ふものは決してさう云ふ人の作つた物を自分が賣るのでなくして問屋へ持て行き、問屋から可也立派な方の家にも這込で居る、是が昔と違い傳染病と云ふことが極りまして今年の十月一日から取扱ひを異にすることになりましたのですから隨分危險なものです、（書を示す）是にも色々種類がありまして神經を侵されるものもあり斯う云ふ（書を指す）やうになつて居るのもある、鳥渡見ると綺麗のやうですが能く御覧になると決して綺麗ではありませぬ

次に色々な傳染病に罹りました時に仝時に皮膚に出るものがある、是はチプスを病むだ時に皮膚に出

ろものとか或は發疹チブスなどは主もにそれが餘計出て參ります、それから痲疹を病むだ後て粉のやうなものが落ちることがありますし又猩紅熱を病みました後も亦た小供の水痘、天然痘の輕いのではありませぬけれども、見た處天然痘に形ちが酷似して居るそれから天然痘、丹毒、此等は他の病氣は起りませぬ、能く湯殿で石鹼の箱を持て轉むで怪我をしたとか髮結の櫛から頭に傷が付いたと云ふことから始つて段々赤い色を帶びまして、それが進むで四十度の熱が出ることがある、さう云ふ消毒の不注意から起る病氣が幾らもあるが是も隨分生命に關係を及ぼします、斯う云ふものを一々申上げませぬでも畵を御覽になれば御解りになると思ふ(數葉の畵を示す)此中で能く傳染するもので飛火と云ふものがある、是は御子供達を御持ちの方は特に御注意を願ひたいのは今は飛火の時候でございます、最初顏などに水腫れが出ましてそれが潰れまして其後へ黄い痘が殖る、是が直ぐ傳染りますから御用心を願ひたい、隨分小さい赤さんを御持ちの母親が親子とも一緒に病むで居るのが多いです、是も亦色などに種類がありますし、冬起るのと夏起るのとがあるさうして傳染性のもので時に依と身體中繃帶を卷かねばならぬまで酷くなつたのを見ますから是などは小供に傳染れば家内中擴がるもので別に生命にかゝることはないが隨分忌なもので酷いのはヒッツリになりますから是に罹つたならば成るべく早く御處置になれば癒ります、甚だ雜とした話でありますけれども唯畵を御目に懸け斯う云ふものは恐ろしいと云ふことが御分りになりましたならばそれで充分でございます、是で御免を蒙むります

## 叢談

# 月經時の攝生

醫學士 ふわ君

○一般に婦人は男子よりも身の丈が低く、肉も骨もすべて繊弱く出來て居るが、男子に比して一歩も輸籌をとらず、寧ろ遙に優つて居るのが腰の圍りの大きさてある。裸體の婦人に就て頭蓋の腦天から足の爪先までを測つて見ると、實に最も大きな部分が腰と臀部との圍りてあつて、之がために足は内輪に歩み、肩は撫ぜ肩になつて居る。

○男子の體で最も幅の廣ひ部分は肩であつて、腰の邊は婦人のそれに比して遙に小さくなつて居る。此男女身體の差はヤガテ兩性の職分の違つてゐるのを示すものて、男子の肩の廣いのはすべての責任を負つて立ち、毫も屈しないと云ふ外に對しての奮鬪を意味し、婦人の臀の大きいのは子供を生んて、父母の心を繼がせると云ふ種族繼續の秘義を示して居るものてある。

○婦人の生殖器殊に子宮と云ふべき部分は、此廣い骨盤の中にあつて、周圍の組織とは互に緩かに結合されて居るものてあるから、平素健康な時でも或度迄は前後、左右、上下の方向に動き易きものてある。然るに月經中及び月經の前には子宮に流れ込む血液の量が増してくるから、平生よりは其重量も増すものてある。

○されば月經の時に當つて過度の運動及び勞役をして、下腹部に力を入れる時には、容易に子宮の位置を變へ、或は其常形を變ぜさせる事のあるのは誠に見易き道理てある。これを毎日反覆せば遂に全く子宮病となり、月經不順や、白帶下や、腰及び頭の痛みや、ヒステリーや、不妊症などの原因となる事がある。

○故に凡そ女子たる者は、月經の間は過度の運動勞力を避けねばならぬ。女學生などては遠足、體操、運動會等へも缺席せねばならぬ事がある。

○されど過度の運動が良く無いと云ふ意味て、輕裝にして適度の運動をすれば血液の循環がよくなり、却つて骨盤内の欝血を去るの効がある。故に體格も良く、榮養も充分て、他に身體の故障が無ければ適度の運動は之をしても差支へは無い。

○「凡そ婦人は一ケ月一度は必ず月經て寢なければならぬ」とか、「月經中は斷じて立ち働いてはならぬ、勉強してはならぬ」とか云ふのは餘りに嚴格過ぎる嫌がある。小供の時から輕裝活潑に適度の運動になれ、從て筋肉骨格の發達も亦た良好であれば、月經の時に當り取り分けて運動を制限する必要も無い。

○勞働社會の婦人中には月經の時にも尙ほ平生の勞役をして毫も差し障りを感ぜぬ者もある。が、讀者諸姉の中には其體力と健康とが勞働社會の婦人よりは劣れる者も多く、從て身を處するに安靜にしなければならぬ者も多からう。

○平素の心掛けとして毎日適度の運動をなし生活上に緊要な内臓の周圍にある筋肉を强壯にすれば、月經の時になつても色々の苦情が少く、或は全く之を感じないものである。

○女子の月經を目して「不淨である」と云ふたのは昔のことて、醫學上から云へば生理上無くてならぬ作用てあれば、月經の時神佛に詣ても憚りなく、平然として心を落ち付け、物に怯ぢ事を苦慮するにも及ばない。心の平和は健康の要義て、月經を輕易にするにも亦た之が無ければならぬ。

○或病氣に就いて絕えず掛念し、或機關に就て日夜苦勞すれば遂には其病氣となり、其機關を害ふに至るものである。されば月經の時は勿論、平素健康な時に於ても成るべく生殖器の事を苦慮せず、一切の取越し苦勞を其念頭から去らなければならぬ。

○局部は充分淸潔にし、他の身體の部分も冷水又は溫水て充分之を洗ひ去る。襯衣襦袢の樣な直接に肌

身に着くものは勿論、上着の如きも屢々更衣て常に淸楚したものを纒ふ。凡て淸潔と美麗との意を取り違へず、黄金の玉はちりばめず、錦の衣は飾らないても身に餘りて心地好い淸潔な衣類を着くべきてある。身體に於ても同じ樣て口唇に紅粉は點さず、顔には白粉を塗らないても、自然本來の素色、汚れさに非ずば色の黑白何てあらう。美麗は無くとも淸潔は缺かぬ樣にしたい。

○取り分け風邪をひかぬ樣にし、飮食物の攝生に注意し、酒類は一切之を嚴禁する。要するに月經時の養生と云つても差して平常と異ことなく、衣服を輕裝にして强く廣い帶を緊縮めず、呼吸を深くし、飮食を攝し、睡眠を多くし、新鮮な空氣を吸ひ、適度の運動を營み、身體を淸潔にし、精神を安靜にすること等が必要てある。

○適度の運動なら之をしても差支へ無いと云ふのは、身體の健康な婦人にのみ云ふ事て、聊かても尋常より弱いと云ふ人は心身共に之れを休める方が良い。月經の際に身體が倦怠く、手足を動かすにも物憂く、活潑に立ち働らくにも氣の進まぬ樣てあれば、これ自然が「休息せよ」と云ふ默示を與ふるものてあれば、無理に我慢しては宜しく無い。平素身體及び精神の活動となつて現はるゝ活力は、月經の時には生殖器の作用の爲めに使はるゝものてあれば、强て精神と身體とを勞するのは衞生の方則に違つてゐる。

## 人體の武裝（續き）

K、K、生君

吾人の身體は、四圍の狀態と如何なる關係を保つて居るか、外界には、いろ〳〵な害物が絶えずねらつて居るので、なか〳〵枕を高くして安眠は出來まいと危ぶまれる位て、斯うして無事に生きて居るのが却て不思議だといふ事は、前號にザツト申し上げて置きました。處が、實際は日々安穩に生活して行け

る、之には又相應な理由がある筈だと云ふ處から、それに就ても三ヶ條だけを申して置いたのでありま す、本號に於ては、其續きを申し述べる事に致します。

(四)　毒物に對しては如何するか

種々なる毒物に對しては、人體は又色々な方法を以て、防禦の策を講じて居るのであります。酸類や亞爾加里類の如き、強い腐喰劑が身體に觸れても、皮膚には角質の被ひがあり、粘膜にはネバ〱してゐる所謂粘液があるから、之が或程度までは防ぎをつけて吳れるのである、尤も、相手が餘り有力であれば、どんなものでも閉口させれるに極つて居る、例へば、非常に強い硫酸や石炭酸を身體にかけたらば、一堪りもなく腫れ上り、その部分は眞黑になつて、直ぐに糜爛れて仕舞はねばならぬ、又、過失或は自殺の目的て、強硫酸、重クロム酸などを飮む人が折〱あるが、斯ういふ場合には、いくら粘液があつても間に合はない、口も食道も胃袋も、忽ち眞黑に燒けたゞれて、時によると胃の壁などに孔が開き、見る間に死んで仕舞ふ樣な事になる、これは誠に至當な事で、どんなものにでも平氣て堪えられる樣な身體てあつたらば、吾々の生活に味も、有りがたみも無くなつて仕舞ふてありませう。

かゝる毒液を飮み込んだ時には、胃の中に液の分泌が非常に盛にある、これは、毒液を飮んだ時に、直ちに水を多量に飮むのと同樣な理屈て、大に毒を薄め、毒物の直接に胃壁に觸れる量が少くなるから、働きも弱くなる次第て、結局害を少くするための設備と考へる事が出來る。

色々な毒藥(モルヒネ其他)、又は腐敗した食物などを、呑み或は食した際には、多くは胸の惡いのを感ずるものである、モルヒネなどは、少量であれば却て心持ちが善い位てあるけれども、少しく多量てあれば、矢張り氣持がわるいのである。一寸考へると、どんな食物を食べても、氣持なんど惡くならないのは、大層丈夫らしく思はれて、結構の樣に感ずる人

がある か知れないけれども、決してさうてはない、毒藥を吞み、若くは毒物を含んで居る食物を食べて、胸の惡いのを感ずるのは、有り難い仕掛けだと云はねばならぬ、何故なれば、毒藥又は毒物は、吾々の身體に有害なものである、これが、胃又は腸から吸收されて、血液の中に混じ、身體中を循環するとなつたらば、それこそ誠に一大事て、身體の不幸、之より甚しきものなしてある、處が幸にも、毒物の進入したといふ事は、割合に速かに分る、これは胃壁の神經が、はて怪しいなと感付いて、急いて腦の方へ報知するのか、或は毒物中の氣早な一部分が、眞先に血液中に躍り込んて、腦の方へブラ〳〵迷ひ込み、曲者として發見され、隨て後からもまだ追々進入する事が發覺するのであるか、何れにしても腦の中樞ては、これは一身の一大事であるといふ譯て、毒物追ひ出しの一件を胃袋に命令する、胃袋からは食物を腸の方へ送り出して遣るのが、自然の順序てあるけれども、腸と云ふ處は、物質吸收の本場てあるから、其方へ遣つては猶更大事になる、どうしても、元這入つて來た口の方から追ひ返さなければならない、この命令が、即ち胸惡或は嘔氣として現はれて來るのである、この時、自然に、或は少しの助けを以て、充分に嘔吐をして仕舞へば、直ぐに快くなる事が出來る、若し重い場合でも生命の助かる事が出來るのである、死ぬ氣て毒藥を吞んだのなら仕方もないが、知らずに吞んだとか、又は知らずに惡い物を食べた時に、一向氣持に變化が起らなかつたら、その中に充分毒が廻つて、とう〳〵死なねばならぬ事になるてあらう。この關係は、外國の兵が攻めよせて、ソロ〳〵上陸ても始めた時に氣がついて、早速鎭臺に命じて擊退させるのとよく似て居る、それが出來ない時は、國家は滅亡せざるを得ない譯になる。

コレラ、破傷風、ヂフテリヤなどの黴菌が製造する毒素、或は蛇毒の如きものを、皮下に注射すると、血液の中に吸收されて、甚だしい症狀を呈し、毒

の量が一定量以上になると、必ず死んで仕舞ふのであるが、さて之を口から飮ませても一向害がない、或人は鼠で實驗して、破傷風の毒素では、注射でならば殺せるといふ最少量の、三十萬倍を吞ませても鼠がまだ死なかつたと云つて居る、右の如き差異の生ずるのは、結局、胃液の働きで有毒のものが無毒にされるのであります、或人は、胃液の中にある特種の醱酵素の働だとも申して居ります、外にも、斯くして中毒を免れるものは多くあるので何にしても有り難い事であります。

彌々毒が這入り込んで、血の中に混ざつた、今身體中を循環して居る、といふやうな場合になつたら、最早や全然駄目であるか、吾々の身體は早くも締めて、無抵抗主義を取り、無爲にして死の自ら到るを待つかと云ふに、さうではない、一方には、既に中毒の症狀を呈して、頭が痛むやら痙攣を起すやら、身は四苦八苦の中にありながらも、身體內部の器管は、尙一生懸命働いて、早く毒物を體外に追ひ拂はんと勉めるのである、而して、この際主なる働きをなすものは、腎臟、肝臟並に腸であつて、就中、腎臟から排泄される液即ち尿中には、殊に多量の毒が排泄される事が分る、若し又以上の如くにして排泄されぬまでも、毒素は身體中に於て化學的の變化をうけ、全く無害無毒のものとなる事もあるのである、この二つの作用が、迅速に行はるれば行はるる程、又それ迄に起つた害が少ければ少い程、生命の保證が確實になるのであります。

毒物に對して、自然の免疫があるか如何か、若しあれば如何なる工合のものであるか、その事に就ては、今日はまだ詳しくは分つては居らぬのであるが、只だ毒物中には、或定まつた動物體には毒になるけれども、その外の動物體には、全然無毒物であるといふ樣なものが澤山にある事だけは、確かに知れて居るのであります。それ故に、動物に有害なものが、人間には無害だと云ふ事も、實際あるらしく考へられる次第である。

急性或は慢性に、中毒を起させる物質は、皆毒物てある、その種類は極めて多いので、到底茲に云ひ盡しうべきものでない、けれども、その何れたるに係らず、人體が自己防禦の必要上、取る手段と云ふものは大體右の如くである、毒物の話が餘り長くなりましたから、大體で切り上げまして、次には更に甚だ重要なる

（五）寄生物に原因する傳染、並にそれに因て起る處の中毒に對しては如何

と云ふ問題を申し上げませう。

人體に寄生して特種の病氣を起す處の、或は語を換へて云へば、傳染を惹き起す處の幺微生物中には、植物性のものと動物性のものとがある、植物性のものは、黴菌又は細菌と稱へ、其小なる事殆く計りて、數百倍に擴大しても、多くは針の先程の大さに過ぎない、併し其存在の數に至つたならば、二度喫驚せざるを得ぬ程多數であつて、數の上から申したならば、今日の世界は、慥かに黴菌の占領に歸して居ると云つても決して過言ではない、この多數の黴菌中、全然無害のものが澤山ある、のみならず、場合によつては有用缺くべからざるものもある、例へば酒や酢は全く黴菌の働で出來るのであります、併し他方には、これらの黴菌中に、人類の最大强敵が潜伏して居る事を忘れてはならない、コレラ、チフス、赤痢、ヂフテリヤ、結核等、皆黴菌の所業である。動物性の幺微體は、矢張り極めて微細なるもので、種類も亦甚だ多いのであります、この中にも、人體内に這入つて、黴菌同樣の害をなすものが澤山にある。

斯の如き生物體は、種々なる方法を以て吾人に接近し、隙あらば體内に躍り込まんとして、うるさく付け狙つて居る、第一迷惑なのは、その數の多い事である、吾人に何等かの武裝がなければ、迚も遣り切れたものではない、或は又火の子の降りかゝる火事場に居る樣なものであるから、火事場裝束が是非共必要である。

然らば、吾人にさういふ武裝或は火事場裝束があるかといふに、私は幸にも「然り」と答へる事が出來る、勿論吾々の武裝は、鎧冑や七道具のやうなものてはない、否、その樣なものは不便であつて、到底四六時中の佩用には堪えぬ代物である、吾人の武裝はズット便利て、仕掛けに手が込んで、誰も自分てさへ氣が付かない樣に巧みに出來て居る、而して、この防禦は、特に黴菌（バクテリア）に對して重要な價値を有して居るのてあるから、主に、その點を基礎にしてお話をいたします。

（一）先天性免疫、人體は、多くの動物に取て病源となる或種の黴生物に對し、生れ付きの免疫性を以て居る、例へば、豚や牛て激烈な病氣を起すバクテリアが、人體に這入つたからと云つて、人間は一向平氣て居る場合がある、これは畢竟、そのバクテリアが、人體内ては繁殖が出來ないと云ふ事に歸着するので、其理由は何てあるかと云へば、人體の組織には、彼等の生活に必要な條件が完備して居ないか、或は一種の物質が存在して、積極的に其繁殖を妨げ、又は直接に之を撲滅すると云ふ事に外ならぬのてある。

人體に對する病源體に對つても、相當の防禦力はあるので、其力の程度により、大體四ッの區別をする事が出來る、即ち第一は、バクテリアの組織内に進入せんとするを防ぐもの、第二は、進入したるバクテリアの繁殖を、限極した局部だけに閉鎖せんとするもの、第三には、既に一局部に蔓延し始めても、血管内に進入して、他の部分に轉移する事を防ぐもの、第四には、既に以上の樣な事が成立しても、尚且身體の毒害を防ぎ、或は少くとも、之を弱めんとする設備てある、この事は、大分重要な事柄てあつて、話も少し長くなるから、何れ次號に讓る事に致しませう。

# 活ける家（續き）

醫學士　渡邊房吉君

## （十一）　活ける家の洗濯所

錦繡綾羅は纏はないてゞ、襤褸の衣垢さに無ければ、衞生生活を營むに於て何等の差し障りは無い。只管華美を好むのは人類本然の願ひではあるが、淸潔を好むの衞生的なるに及ばない。華美のうちにも不潔はある、たとへ敝衣襤褸でも淸潔でさへあれば、美衣の人に立ち交つても何等の耻づる所があらう。此高尙尊貴なる衞生的觀念から見れば、人の家には寧ろ吳服屋よりも洗濯屋が必要である。我が

活ける家の洗濯所は左右の肺臟であつて、彼の心臟から出發して全身を巡り廻つて歸つて來て血液が、汚れ〳〵て暗紅色になるのを悉皆洗ひ落されて、再び元の鮮紅色に變ずるのは實に此肺臟である。肺臟の中で其平生の職務に服してゐる

洗濯人の名を空氣と云ひ、其通用門が二つの圓い鼻孔で、こゝから入つて氣管を通り、氣管枝から小氣管枝を經て、最後に其仕事場である氣胞のうちに急ぐのであります。肺と云ふのは此氣管及び氣管枝に續いた小氣管枝及び氣胞が多數相集つて出來て居るもので、別けても氣胞が最も必要であつて、血液の中の不潔物を取り去り之に代へて空氣中の酸素を與へ、全身に淸新な鮮紅色の血液を給して健康長壽の源をつくるのは此處であります。若し此氣胞が一瞬間でも血液を潔める仕事を止めたならば、我々の玉の緒は直に絕えて仕舞はねばならぬ。肺は左右の兩半から出來て居つて、其周圍を

二枚の肋膜から包まれ、又其外を肋骨と胸骨と背椎とから金城鐵壁のやうに取り圍まれてゐる。此金城鐵壁の名を胸廓と云ふので、換言すれば

肺の形狀

は胸廓によりて取り定められて居るのであります。然し肺の尖端は胸廓よりも更に頸の方に飛び出して居るもので、之を

肺　尖

と云ひ、此部分が少しく病氣になり始めたのを、肺尖加答兒と稱するのであります。肺の底は殆ど平坦て、横隔膜と云ふ胸腔と腹腔とを堺ひして居る肉の上にのつてゐる。此肉が擴がつたり收縮だりすると同時に、胸廓に着いてゐる筋肉も伸縮して、胸腔を廣げたり狹めたりする。胸腔の廣がる時には肺も亦た大きくなり、外界から空氣が入り込む。之を

吸氣或は吸氣作用

と云ひ、胸腔の狹まる時には肺も收縮つて小さくなり、肺の中の空氣を外界へ追ひ出して仕舞ふ。之を

呼氣或は呼氣作用

と云ふので、我々は吸氣によつて新鮮な空氣を充分に吸ひ込み、呼氣によつて體内で汚れた不潔な空氣を又充分に吐き出さねばならぬ。此兩作用を稱して

呼吸或は呼吸作用

と云ふので、一分間に平均十八回位づゝ行はれて居るのであります。勿論老幼により多少の相違はあるもので、一般に老人は幼年者よりも呼吸の數が少いのが普通であります。總じて、脈が四度び搏つ毎に呼吸が一回づゝある割合て、一分間に呼吸の數が十八回とすれば、脈搏の數は七十二になる筈であります。俗に呼吸困難と云ふのは呼吸の數の增加した狀態を云ふので、何故呼吸の數が增加するかと云ふのに、之れは惡ひ空氣の中に居るため酸素の量に乏しいか、或は色々の病氣のため吸ひ込む空氣の分量の少いからであります。我々が空氣を呼吸すると云ふのは、空氣中の酸素を血液中に送り込むのが目的て、酸素は實に何物にも代へられない身體の食物であります。學者の計算によれば

身體の半ばは酸素から出來てゐる

と云ふことゝて、如何に身體の經濟に酸素が必要てあるかは之によつても解るのてあります。我々が『何か食べたくなる』と云ふのは舌が甞めたいと云ふのて無く、胃が欲しがると云ふのても無く。我々が『水を飲みたくなる』と云ふのも口が渇く爲めては無く咽喉が飲みたい爲めても無い。身體の組織及び血液が饑ゑ且つ渇くが爲めてあります。同樣に呼吸困難と云ふのも肺に空氣の乏しいと云ふのて無く、實に身體が酸素の供給を熱望するが爲めてあります。若し此供給の途が絶ゆれば

### 窒息

と云ふ狀態になり、早く手當てをして新鮮な空氣を吸はせぬければ、遂に取り返しのつかぬ樣になります。生れて日を經ぬ嬰兒が母と添ひ寢の夢の中を、無殘や乳房に空氣の途を塞がれて窒息する例は多く火事場て遁げ場を失つて烟に捲かれて窒息すると云ふことも少くない、實扶的里と云ふ病氣て咽喉が塞つて窒息すると云ふ事も往々見受ける所てあります

食物は一日に二度乃至三度に食べて差し支へないが、呼吸は一刻ても休めてはならぬ。西洋の昔話しに貧乏人には三ケ月毎に洗濯日が來、富貴の人には一年毎に來る。其日になると多勢の洗濯人が入り込んて、天を焦す樣な火を燃きつけ、大盥を据ゑ付けて、揉むやら擦るやら、流すやら濯ぐやら、大騒ぎに騒ぎ散らして一週間のうちに、山の如くに積んてあつた汚れた衣類を洗ひ盡す。と云ふ事がありますが、我が活ける家の洗濯場に於ては『留め洗濯』と云ふことが無く、一瞬一刻の間ても血液の洗濯が空氣によりて營まれて居るのてあります。即ち夜となく晝となく、我々の意向には關係なく呼吸されてゐる。が、我々にして肺の病氣に罹りたく無ければ、又相應に其注意を呼吸作用に傾けねばならぬ。

第一呼吸すべき空氣を撰擇しなければならぬ新鮮なる空氣を吸へ。生れたての小兒の肺は白色てあるが、大人の肺は眞黑てある。これは知らず識らずの間に空氣と共に吸ひ込まれた塵埃が肺の中に堆積か

らて、若し黴菌などが吸ひ込まれゝば、肺炎とか肺結核とか云ふ聞くも忌はしき病氣にならなければならぬ。助膜炎と云ふものも多くは肺病の初期或は其前驅症てあります。すべて空氣は

鼻から吸へ、口から吸ふな

鼻から吸ふ理由がらには種々あります、第一空氣が汚れて居つて惡臭があるか何うかを嗅ぎ別けるのは鼻であつて、鼻は我々に惡臭のある場所へは近か寄るなと警告する。鼻の入口には細い毛が密生してゐて、空氣中の塵を濾し去つて清潔にする。此毛から捉へられずにマンマと深く入り込んでも、割合に長い鼻道の粘膜に粘着て、肺まで達する事が出來ぬ吸ひ込まれた空氣は鼻の中で適度暖ためられ、且つ適度く濕ほされて肺の中へ行く、故に肺を害することが無い

之に反して口から空氣を吸ひ込めば、塵は濾されないて惜し氣も無く肺の中へ侵入し、空氣は暖められず濕ほされないて深く入る。之がために口腔は乾燥き、咽喉加答兒になり、咽喉は痛く、聲は嗄れ、或は氣管枝加答兒となり、果ては眞の肺病に變症する樣な恐れがあります。且つ口を開いてゐる程馬鹿らしく見へる者は無い、白痴は多く口を開いて茫然してゐるものであります。西洋の諺に

口を閉めて生命を延ばせ

と云ふ事がありますが、單に饒舌をして禍を買ふなと云ふ意味ばかりては無い樣てあります。されば平生口を閉めて鼻から呼吸すべきてあつて、寢てゐる間も其心掛けが無ければならぬ。或人は云ふた

信用する人の寢顏を見るな、寢顏ては賢人も馬鹿に見へ、德ある人も無德に見へる

と。前後も辨へずに華胥の國に遊んてゐては、醒めて働いてゐる時程活々した靈氣の無いのは無論てあるが、サリ迚ダラシも無く口を開て、涎を流らしてゐるなどは外見は兎も角衛生上には禁物てある。

或西洋の醫者も云ふた

健康て、金持ちて、利口にならうと
思ふなら口を閉めて眼を開けろ

と。至言てはありませんか。

呼吸すべき空氣は人工て汚されない、潔い、新しい、自然の儘のもので無ければならぬ。斯樣な空氣は海濱にはある、山野にはある、人里離れた自然のうちには何處にもある。故にお互は家政の休暇のある時には、徒らに一家の小天地に跼蹐せずに、勇壯活潑に散策ても試みたい。勉强部屋、仕事部屋、寢室等は都て廣くつて空氣の流通の良いのがよい。日中は開け放つて思ふ存分日光を入れなければなりません

煙草の煙りは肺の粘膜を害す

故に煙草の煙りて汚れた空氣は吸はぬ樣にする。悲ひ哉我國ては公衆衞生が進歩しないて、閉め切つた狹い室や、汽車の箱なぞの中て、人の迷惑も顧みず周圍構はずプカ〳〵と吹かすものがある。が、誠に不道德な行爲と云ふべきてある。若し玆に人があつて井戸の水を濁し、河に毒物を流したとしたらば相當の罪を蒙るのは至當てあらう。さるを隣人が呼吸する空氣を汚して、不問に附せられると云ふのは抑も何故てあらうか。

第二充分深く呼吸しなければならぬ

呼吸するには適宜に筋肉を使へ。醫學上ては呼吸を二つに分類て居ります、一は胸ばかりの呼吸、他は腹からの呼吸、腹からの呼吸ては胸の廣がり方が大きく、空氣の出入りが盛んてある。胸ばかりの呼吸ては之に反對てある。悲ひ哉日本ても西洋ても婦人は一般に胸ばかりの呼吸てあります。讀者諸姉よ乞ふ廣ひ帶を解いて腹からの呼吸をせられよ、諸姉の腕に抱かれてゐる可愛い嬰子を御覽なさい、腹から泣き、腹から呼吸するてはありませぬか、私は讀者諸姉が

嬰兒に就て學ぶところあらん事を願ひたい

歌ふにも語るにも腹からの聲が欲しい。口の尖て

只聲帶ばかりを動かしたのでは、大きな聲も出ず、疲勞易く、病氣になり易い。牛のなく聲、犬の吠へる聲、馬の嘶く聲などを聞く時能く其身體に氣を付けると、腹に力を一杯入れて空氣を外界に押し出すのがわかる。有名な演說家や音樂家が自在に聲を運用して、人心の肺腑を穿つことの出來る樣になるには、先づ腹から呼吸する樣に稽古せねばならぬとの事であります。尙ほ其他の事は昨年二月發行の本誌中に掲載した、「呼吸の話」に就て宜しく御熟讀を煩はしたい

## 衞生生活の一日（承前）

東京醫科大學　A、B、生　君

○○○○第二十八　晝飯に關する注意如何○○○○○○○○○○○

午前中の事は略ぼ申し終りましたから用事を片附けて晝飯の用意に取りかゝりましやう。扨て晝飯には如何なる物を喰べたらよいでしやうか。朝飯には流動の物を撰び小食を御勸め申して置きましたが、晝飯には其樣な遠慮は不必要で有らうと思はれます。だから何樣な物でもかまはず、朝飯とは反對にどし／＼不消化な物をも取る樣に致し度いもので有ります。一體近頃は人々が消化し易い物／＼と云ふ風に成つて參りまして、苟くも不消化な物はどれ程滋養分を含んで居ても、どれ程自分の嗜好が向いて居ても喰はない人が有りますが、之れ實に一を知て十を知らざる次第で損なる話で有ります、如何にも胃を大切にしなければ成らぬ事は勿論では有りますが、大切にすると云つて常に消化の宜しい流動的の物のみを與へて居ましては、胃は其安きに慣れて漸次其勢力が衰ろへる樣に成り、爲に偶然他家で少しの不消化物でも喰へば直ちに胃病を起す樣な事に成りましやう、之れては結局胃を大切にしたとは云へなく成ります、だから時々は不消化の物をも與へて消化する力は何時迄も十分に存して置く樣に

勉めねば成りません、而して其不消化の物は何時取るべきかと云ふと、朝飯の時では不都合で有る事は其時に申して置きましたし、夕飯は如何かと云ふに人は大抵夜分にはあまり運動する事も無く且つ胃の消化力も夜は餘程弱つて居りますから、此時も宜しく無い、だから如何しても之れは晝飯の時に取らねば成らぬので有ります。併し只不消化の物を取ると云ふ事ばかりが目的ではありません、同時に滋養に富んだ物を取らねば成りません。滋養には成るが何分不消化だからと云ふ様な食物は隨分多いので有りますから之れは是非晝飯に喰はずば喰ふ時が有りません。又人には各自に所謂好物と云ふ物が有つて、妙な物を好む人が有る、椎茸が好物だと云ふ人が有つたり、烏賊が好きでたまらんと云ふ人が有たりする、自分の好物が幸に消化し易い物ならば結構だが烏賊や蛸が好物とあつてはさう常に喰ふ譯には行かぬから晝飯の時に喰ふ様にせねばならぬ、此好物を喰ふと云ふ事は非常に必要の事で、自分の精神の滿足の爲に甚だ愉快に感ずるばかりで無く、消化の作用を非常に活潑にするもので有ります。又此外刺戟性興奮性の食物等も食ふなら晝飯の時に取らねば成りません、此様な物は夕食に喰つては興奮が俄に去らずして、睡眠を妨げる様な事とも成ります。一日を三分すれば午前は腦力を用ゆる時、午後は體力を用ゐる時、夜分は休息の時で有りますから、少し位の不消化物や大量の食物も晝飯の時に取たのは、午後の運動の爲めに其事を來す様な事なくて濟むので有ります。

## 第二十九　辨當の注意如何

家庭の人は前章の如く家庭に在つて美味を飽食して居ればよいのであるが氣の毒なのは辨當を持つて出て行く人で有ります、出た先で晝を濟ます様な上等な方も有りますが、役所や會社に勤める人や學校行きの子弟等を算へて見れば辨當を喰つて居る人は隨分あります。辨當位如何でもよいと云つて仕舞ふ方も有りましやうが、それは大なる心得違ひで有り

ます、辨當も矢張一回の食事で、三度の中の一度で殊に最も大切な晝飯で有りますから、之れは餘程重く考へねば成りません、こんなつまらん事だからとて下女に任す事は止しで是非主婦が手づから詰める樣にし度いもので有ります。扨て辨當を用意するに當つて注意すべき事が四ヶ條あります。其第一は腐敗を防ぐ事で有ります、朝煮て入れた物が腐敗する筈が無いと云ふ人が有りましやう、併し實際腐敗するから致方が無い、勿論冬向は其樣な心配は有りませんが夏には毎日其患がある、殊に煮き立ての飯を直に入れて其上にお菜を入れて置く時には夏は晝迄には其お菜は腐敗して居る事は多い、小兒は腹が空つて居るから少し位臭くても平氣で喰て仕舞ふ、其爲に胃腸の加多兒を起す樣な事は度々有るので有ります。だから辨當箱はよく洗つて置く事は勿論で有りますが、飯を入れる時には煮き立ての飯は少し冷してから入れる樣にしなければ成りません。第二は見て美しい樣に入れてなければ成らん。大體食事と云ふものは同一の材料を用ゐても其料理方や食器の美しいのと醜いのとでは其味が非常に違ふので有ります。同じ吸物同じ刺身を喰ても料理屋のが美味いのは此理で有ります、殊に辨當は最も簡單で有つて食事をする場所もあまり食慾を起さす樣な所では無く、食卓も無ければ膳椀も無く、只見るに辨當箱喰ふに其内容のみが其人の食思を呼び起さうとするので有りますから、餘程小奇麗に甘さうに見えて居ないと喰ふ氣には成らぬもので有ります。あゝ又辨當飯かいやだなあと思ひ乍ら辨當を出して見ると、包んだハンカチーフは長く洗濯しないから薄黒く汚れて居る、ほどいて見れば箱の外には飯粒が乾き附いて居る、汁がしみ出して居る、開いて見れば飯は菜の汁で色が附いて居る、粒の形もなくびちや／＼に押し附けられて居る、飯の上に何だか見苦い物が附いて居る、菜の方はと見ると何やら生體の知れぬ樣な臭い煮魚が見苦しく入れてあつて、色の惡い漬物が其隅の方に同し居て居る、此樣な薄氣味の惡い辨

當を、沒趣味な事務室の机の上て不景氣な面をした同僚と並んて喰はねばならぬとすれば實際無理て有ると云はねばならん。辨當飯を甘く喰はすのは主婦の腕次第て有ります、飯はあまり壓し附けず柔に入れ、汚ない物のかゝらぬ樣にし、お菜は成るべくさつぱりした物にし、汁はよく切つてしみ出す事の無樣、魚類等は成べく燒いて入れ、辨當箱は極めて清潔にし、包む物は氣持のよい物に包むと云ふ風にせねば成らぬ、此爲に大變甘く喰べるのみならず小兒等には之れが知らず／＼に美風を養ふ事とも成るので有ります。第三には滋養分に富んで居らねば成らぬ事て有ります、まあ辨當飯位は如何でもよし甘い物は宅て喰べたらよいと云はれるかも知れませぬが、宅ては何時喰べさせます、朝は味噌汁て結構、夕はあまり強い物を喰べては腹にたまつていけない其上辨當飯は如何でもよいと成つては出て行く人は氣の毒て有ります。前申した樣に三度の中最も大切な晝飯の事て有るから成るべく滋養に成る樣な物を入れてやらねばなりません、次に又辨當の量の事て有りますが之れは昨年の本誌に見えて居ますが、大人の辨當には其樣な事は有りますまいけれど小兒や婦人の辨當には爭つて小食を誇ると云ふ風がある、怪しからぬ事て有ります、小さい辨當を持つて行つて三時頃に歸つて又飯を喰ふと云ふ樣な惡風は斷然廢せねばなりません、之れは學校と家庭と兩方で注意して矯正致し度いものて有ります。第四には日々の辨當が變化に富んで居らねば成りません、家庭て食卓を同くして召上る時にも毎日同じ樣な物ばかりては飽いて來る事が多いのてありますから、況して最も簡單に出來て居る辨當ては常に味無く成り勝ちて有りますから、夫れが毎日同じ物が續いては閉口せざるを得ませぬ、だからお菜は成るべく毎日順に取換へて目新らしい物を入れ、時にはまぜものや海苔卷きや、又時には本人の嗜好によつてはヂヤムの附いたパンやサンドウイツチの樣なものも結構て有りましやう。毎日の事だから其樣に珍らしい物ばか

りは出來ませぬと云ふ口實の下に同じ物ばかり持たして出して置いて、時に其夫が辨當の趣味なきを訴ふると、どうせ辨當は美味いものては有りませんから、晝飯は役所の方て御取り遊ばせと云ふ樣な夫人があつたら、毎日外に出て働いて居る旦那樣は如何の感があるでしやうか、自分の作つた辨當て其夫を滿足さす事の出來ぬのは奥樣の恥辱て有ります。

## 第三十　婦人は如何に運動すべきか

婦人は何處迄も穩しく萬事柔順てなければならぬと同時に、其體格も男子に比べては成べく細く小さく、下の方に居て俯いて屈んて居る樣なのが尊いと思はれて居たのは決して昔の事てはありません、今ても隨分難かしい姑や田舍の人達ては此樣な考を持つて居る人も少なくは有りますまい、或る人が學校の近傍を通つて、學生が運動場てテニスをやつて居るのを見て、あの人達は遠い東京へ鞠を投げる爲に來たいてあらうか親達が見たら泣くだらうと申したさうてありますが、男子に對してすら左樣なんてすから況んや女子の運動には不賛成の人は多からうと思ふので有ります。併し近來各女學校等て女子の遊戲運動が盛んに成つて來た結果として、女子の體格が全く一變し來つた事は最早明らかなる事て有りまして、少し此方面に注意して居る人々は誰しも皆認めて居る事て有りますから、衞生雜誌てもお讀みに成る樣な婦人方に向つて此樣な事を面倒臭く申し上げる必要は無いのてありますが、併し婦人には一概に左樣申されぬ譯の有る事が多い物て、家庭の婦人と成り、世間の婦人と成つた時に、何如迄も運動萬能、學校敎育萬能を稱へて居る事も出來無く成るかも知れません。だから其樣な場合を考へ其樣な位置にある人の爲を考へて、如何なる頑固な人にても昔の人にても賛成せらるる方法があらば、其方法を研究して置くのも亦必要とせねば成りません。其運動法は如何かと云へば何ても無い事て、成べく多くの事を人に托さずに自分てすると云ふに外ならぬのて有ります。西洋の話に、金を澤山親から讓られた

人が有つて何も自分は仕事をせずに暮して居たが、追々不精に成つて、室内を動く事すら嫌に成つて終には自分の身體に附屬して居る衣服調度を着たり取たりする事迄も出來無く成り、室内の給仕を始終身邊に侍せしめて、如何なる些事をも成さしめて居たが、それて尚自分は常に苦痛を訴へて居たと云ふ事て有りますが、人に托せ、命令して何事をも成さしむると云ふ事も、案外餘り愉快な事でも有りません此樣なお話はよく日本にも有る事て、自分は炬燵にあたつて居て、其机の上の本を取れ、障子を閉めてくれ、ランプの火を大きくしてくれと云ふ樣な事はよく見られる事て有ります。此樣な事は習慣に成るので有りますから、自分でやる癖をさへつけて置けば何事も無く出來て、少なからず愉快を感ずるのであります。運動と云ふのもつまり此癖をつけるに外ならぬので有りまして、本を取たり、ランプの火を大きくする事は小さい事で有りますが、何事をも自分で行なふ樣にして居れば立派な運動が出來るので有ります、仕事と云ふても其人の身分次第てありますが、强ち身分が高いと云つて何も仕無いて居るの要は無く、それ相應に用事の有るもので有ります、時によつては掃除も手傳つたり雜巾もかけたり、臺所の事も下女には任して仕舞はずに自分も手を下してやり、手の法の運動がそれて十分ならば今度は足の運動の爲には自分で買物に出かけるのもよい、買物などに行ては身分に障ると云ふ人も有りましやうが、成程豆腐や大根は買いに行かれないにしても、身分に障はらぬ樣な買物は如何程でも有る、それを矢張下女に托して居る人が多い、女か出歩くのは面白く無いと御主人のお小言が有るかも知れぬが其時は適當な時刻を撰ぶとか、人を伴ふとか他に方法も有る。又子供の守りなぞも、乳母や子守りにのみ任して置かず、お天氣のよい暖い午後等は庭に下りて子供を相手にして居れば、乳母や子供が喜ぶばかりて無く、之れ實に理想的の戸外運動て有ります。此樣に何事をも自分でやる樣にして居れば、家の中

の物事が自分の思ふ様に行くから満足するのと、運動の爲に精神が常に快活に成つて居るのとの爲めに、毎日腹の立つ様な事も無く、下女も子供も喜ぶ御主人も喜ぶと云ふ様な譯て、一家中笑聲の絶間が無く成る、其笑ひが又健康の源と成るので有ります實に結構な事と云はねばならぬ。此方法によらば自由な運動が出來る、ある一局部の運動でも全身の運動でも、劇しき運動でも穏な運動でも勝手次第て有ります。扨て以上は主として家庭的の婦人の爲に申したので有りますが、決して家庭的の人に限らず全體の婦人方が斯かる考て居られん事を望むので有ります。此外學校等で行なはれる運動法は、其種類も多く夫れを一々玆に述べる必要は有りません、只併し近來學校教育を受けて居る人にも家庭の人にも常に行なはれる事として散歩の事を少し述べて見ましやう。

○第三十一　散歩の心得

或る人は散歩と云ふ名義て散歩をなし、他の人は買物と云ひ、御使と云ふ名義て散歩をする、其名は異なつて居るが、爲す事は一つて有ります、立派な運動法として、健康上に有益で有る事は申す迄も有りません。扨て散歩に關しての注意て有りますが、散歩と云へば只歩いて來ればよいのだから注意も方法もあるまいと思はれますが、一概に左様でも有りません、散歩をして充分の効果を得しむるには相當の注意を拂はねば成りません、それは次の二ヶ條て有ります。第一には精神を休むる事て有ります、散歩に限らず如何なる運動でも、運動の目的を十分遂げる爲には體を動かすばかりては何にも成らぬのて有ります、烈しく用ゐて居つた精神を全く自由にし休まして運動其物の方に考へを向け、其運動に面白味を持ち、喜び乍ら行ふ時に最も多く運動の功を奏するので有ります。散歩をするにしても嫌々ながら義務的に歩いたり、種々の難かしい理屈を考へ乍ら歩いたり、心配や苦悶し乍ら歩いたりする事は、運動の爲には無意味て有ります、考へ乍ら歩くだけ

が目的ならば其人の御勝手で有りますが、散歩しやうと云ふのなら夫れては功は有りません、全く氣を變へて、虚心平氣に成つて歩く樣にすべきで有ります。此樣に精神を休むると云ふ事は散歩に必要なる條件であると共に之れは又散歩の主なる目的の一つて有ります、殊に學生等ては勉強して頭腦が疲れたから散歩して休めて來やうと云ふ樣な場合が多い、然るに頭を休むる爲に歩いて、歩き乍ら頭の中て種々の難かしい事を考へて居ては全然無意味ては有りませんか。試驗前の學生等によく此樣なのが有ります、頭が疲れたから散歩をしやう、併し只無意味に歩いては此貴重の時間を勿體無いからと云ふので小さい本なり手帖なり抜書なりを手にして諳記し乍ら歩く、往來ては人も通り馬も通り珍らしい物も有るから其方に注意か向いて諳記には極めて不便で極めて頭を要する、時間は可なり過ぎたがどれだけの諳記も出來ぬ、仕方無く歸つて來る、又机の前に坐して書物を讀まうとしても頭腦混濁にして了解力極めて遲鈍である、それも其筈頭を休める爲に散歩して却て家に居るよりも劇しく頭をつかつて來たのて有ります。試驗は試驗として散歩の間位は全く忘れて遊ぶ程の勇氣が有り度いものて有ります。第二には姿勢を正しくする事てあります、姿勢を正して歩くと云ふ事は第一は其人の美の要素を作る事て有ります、人の美と云ふのは決して其顏面にのみよるのては無いのて、面が美しくとも、肩か變に曲つて居たり、足が屈んで居たり、上體が前に俯いて居たりする樣な人は一向引立たないもので有りますが、面は十人並位でも身體の形が調ひ、姿勢がよく、衣服を巧に着こなして居る人は餘程立派に見えるものて有ります、西洋人は習慣が習慣だから男も女も一般に姿勢が極めてよい、歩いて居る姿を見ると實に堂々たるものて有る、日本の女は之れを見て、あれは西洋服を着るから立派なので有ると云ふ人もあるが、扨て日本の婦人に西洋服を着せて見ても何だか斯ふ手品師の女の樣に見えるのが隨分ある、して見

れば日本服だからと云ふ譯には云かぬ、中には日本服を着ても實に立派な人も有る、殊に著しき例はお能て有ります、お能の方ては何よりも一番に姿勢を主んじて居るさうて有りまして、あの樣な日本風は妙な着物を着て居ますが、其立派な事、實に自然に品が備はつて見える樣て有ります、だから日本服は日本服なりての美を發輝せしむる爲めに成べく姿勢に注意して歩き度いものて有ります。之れは美の點て有りますが衛生上から申しましても姿勢の正しく無い事は種々の障害を來す事と成ります、殊に俯いて歩く人等には常に呼吸器の作用を不十分ならしむる傾きを來すもので有ります、扨て姿勢を正すと申しましても、云はゞ一言て盡くる事て、つまり體を眞直にして歩けと云ふ事に外ならぬので有ります殊に日本の婦人は昔からの習慣て前の方へ倚いて、常に遠慮して歩く風が有りますが、何だか弱々しく見すぼらしくてあまりよい風ては有りません、昔は之れが女子の美風て有たのかも知れませんが、今少し伸ばして見たいものです、後に威張り反る必要は有りませんが、眞直に成るだけは差支は無いて有らうと思ひます。次は婦人の內足の事て有りますが、之れは日本ては昔から男は外足、女は內足と定まつて、殊に女には守らざるべからざる行儀と成つて居たので有りますから何とも思ひませんが、西洋の婦人が始めて日本に來て見た時には非常に驚いた事だつたらうと思はれます、併し此事は今の場合ては內足の方が美の要素と成つて居るので有りますから今更兎や角と申す必要は有りません、其內に今の學校敎育をうけた人達が主婦と成るやうになつて、一般の婦人の考が內足を好まぬ樣にてもならば、漸次未來の女の足の尖は內には向かずに眞直に成る事となりましやう。以上の外散歩の注意と云ふ樣な事は澤山有りましやうが元來婦人には散歩として散歩する樣な場合は少ないので有りますから此位にして置きましやう、散歩の時間の如きも其個人に適當なる時間を撰ぶより仕方か有りますまい。此次には日本

の女に獨特の運動法なる入浴の事につきて申しましやう。

# 美！

東京醫科大學皮膚科醫局　笹岡芳名君

美と申す範圍はなか〳〵廣い、最も低級なる脚色美もあれば最も崇高なる精神美もあります、それ故に美と云ふ丈けを述べても一月や二月で盡きるものてはありませぬ、此事は皆々方の御承知の通りてありますが、私の今申しまするのは、月の美、花の美、衣服の美、毛髮の美即ち形容の美、それに精神の美的觀念が、如何に人目を喜ばしめ慰安を與へ延いては一種の精神的療法ともなる樣に思はれますので、その事をお話致し度いのであります、皆さんも御承知て有りましやう故人となつた高山樗牛博士は古今東西幾多の人が感に打たるゝ所の蒼白き月の光り(月色美)を說いて極めて綿密に世人に了解せしめた人て有りますが、美的觀念を以て事物に接すればまだ〳〵多くの見捨てられたる美も存在するのであります、宮城野やよし野の里に小さく咲ける菫の花が得も云はれぬゆかしき美なると共に枯野原の一すじ道にちらばる馬糞がそれも見樣によりては美化せしめ得るものであります、大徳が腰をかゞめて嵯峨野に糞をひる處や、上野、芝などの公園に茶屋女がまめやかに働いて赤い腰卷が春風にちら〳〵する處や、水晶も欺くような大きな風呂の湯壺の中に玉と碎けん眞裸體の人が浴みするも電燈に透し見るなどは隨分美しい感じがするもので有ります、是は糞腰卷、裸體の男などが一つ〳〵に美なるものではありませぬが、時と場合によりまして美化し得るものの證據であります、俗間にも物は見樣に依ると申しますが誠に其通りであります、私は今少しく誰も知る櫻の花に就いて古來一種の感に打たれて作つた詩歌を申し上げましやう

百人一首にも載つてゐます通り伊勢大輔がはじめて宮中に上りました時に、さる者が櫻花一枝を献じましたが、恰も帝のお側に附いて居つた藤原道長が筆硯を與へて和歌を題せしめましたが御承知の

　いにしへの奈良の都の八重櫻今日九重に匂ひぬる哉

と、すら〳〵書きました、その筆の痕は今も人口に傳はつてゐる通りであります、又源三位頼政が仁平三年四月禁裡に怪鳥(鵺)を射て主上の御惱みを癒し參らせし事は誰も御存じの通りて有りますが此人も亦和歌を能くしました、その櫻を詠んだうちに、次の如きめて度き歌があります

　近江路や眞野の濱邊に駒とめてひらの高嶺の花を見る哉

又源將軍が智勇絶倫なる事は誰も知つての通りて有りますが、奥州に赴く時勿來關を過ぎ、偶々櫻花の散りしきるを見て

　吹く風を勿來關と思へども道もせに散る山櫻花

と詠みました、又薩摩守忠度が六彌太に首を取られし時、旅宿の花といふ歌一首を箙に結ひつけてありました、その歌

　ゆきくれて木の下陰を宿とせば花や今宵の主なるらめ

又遠江國熊野女が曾て都に召されて、大臣宗盛に寵せられました時に

　いかにせん都の春も惜しけれど馴れし吾妻の花や散るらん

と感慨を歌ひました、此の他本居宣長翁が大和魂を櫻花になぞらへて

　敷島の大和心を人とはゞ朝日に匂ふ山櫻花

とて幾萬年我帝國の有らん限りもてはやされる歌てあります、またこの他に詩人竹外の芳野の櫻花を詠じて

　古陵松柏吼㆓天飈㆒。山寺尋㆑春春寂寥。眉雪老僧時停㆑箒。落花深處説㆓南朝㆒。

と歌ひました、芳野の詩が出ました序に今一つ私の

最も敬服して居る詩聖梁川星巌の芳野の花に對する吟咏を御紹介申しましやう

今來古往事茫々。南朝天子御魂香。石馬無レ聲抔ニ土荒一。春入ニ櫻花一滿山白。

以上の詩歌は僅かに今私の念頭に覺えてゐるものて有りますが、右書などを捗獵つて見ますと數へきれぬ程有ります、詩や歌は多少の修養がなければ作れませぬが、作れぬまでも古人の云ひ殘した詩歌を味ふ力や、月花に對してうつとり酒にても醉ひし樣な心地がするとまで觀得れば、あな勝ち作れぬとも良いので有ります、それ故に是非多少の修養を積むのが自分の一の樂みてもあり、遂に作り得るに至れば武きもの丶夫の心をも和げ得るものであります、何と高尚なる美ては有りませんか、女性の詩人としては先きに述べました星巌の室が紅蘭女史と云ふて有名てあります、歌を能くする人は現在にも與謝野晶子、久保より江女史の如きがあります

話が代はりますが衣服なども新柄〳〵と流行するようて有り升が、いかにも其通りて物には變化が無くては直ちに飽くものて有ります、庭の小さき池も鉢の水も久しく換へませぬと泥むで有りましやう、時代で申すならば德川が三百年の太平も餘りに久しかりしとは云へ、遂に光明ある維新に大變化したては有りませんか、此變化の賜で有る今日の世の中は四十一年前には、夢にも思はれなんだろうと思ひます、私は何物に依らず變化が無ければ物が進まぬので常に變化が無くては駄目だと考へます、衣服の新柄と申すのも全く此の例に洩れませぬ、依て出來る丈げ品良き柄を作り衞生的に織り成されたるもので、男女老幼に適ふ所の目覺しきものは作製して欲しいと考へます、徒らに變形男子の如く女子の服裝を改良するのは、熟考すべき問題て、元祿、平安朝などの衣裳が今日世人の推奬する衣服て有ると共に我國固有の古雅艶容なる國粋は保存すべきが至當てあらうと思ふ

毛髮、形容の美も頗る人目を喜ばしむるもので有

ります、黄金色を欺くが如き金髮、滴らんが如き黑髮の文金島田、何れ劣らぬ美麗なるもので有ります衞生學上より見ても常に毛髮を梳り、時々沐浴して身體の垢を落すなどは嬉しきものゝ一て有ります我々皮膚病學を修むる者は、とりわけ皮膚の血色光澤などを美麗にし、身體の何れにも存する汗腺の分泌障害なきやう、さては發疹物の出來ないやうにと計らなければなりませぬ、彼の色素性乾皮症（俗に〝そばかす〟）が遂には腫物の最も惡性て有る所の癌腫や肉腫を誘發するなどに思ひ至らば、徒らに性も知れない〝おしろい〟などを壁の如く塗つて美貌を計り、又猥りに油類を塗布して頭髮の光澤を計るよりも、人生天然の皮膚の美を計り毛髮の美を計るといふのが生理的に本能を全うする道てあらふと思ひます、玉川の水に晒らせし雪の肌といふのも出來ない事ては無いので有ります

斯樣に大略を述べて見ますと、餘程贅澤て餘裕の有る者てなければ出來ぬといふ感が有るかも知れませぬが、決してそうてはない、此婦人衞生會々員諸姉が中流以上の歷々の御方々て有れば是敷の事は何でもない、いや却て日常に實行されて居る事だらうと思ひます、先きに歌の事を申しましたが、古へは殆んど歌は雲の上人の專有物て有つたような觀がありましたが、三十一文字よりも短詩形である俳句は平民的に大流行がしたものてあります、諸姉が或は諸姉の家族知已等が、不幸にもいたつきに有らせらるゝ時、歌俳句などを以て已れを慰め人を安せしめ得るならば、私は最も崇高なる人格として推奬するのであります、古來女流俳人が世に傑出し是等の女流が多くは中流以下に、しかも遊女の如きものに在りしとすれば、今日十七字詩たる俳句が最も廣く上下を通じて流行する時代に於て一人の女流作者の傑出するもの亦甚だ愉快てあらうと思ひます

井の端の櫻あぶなし酒の醉　　秋色

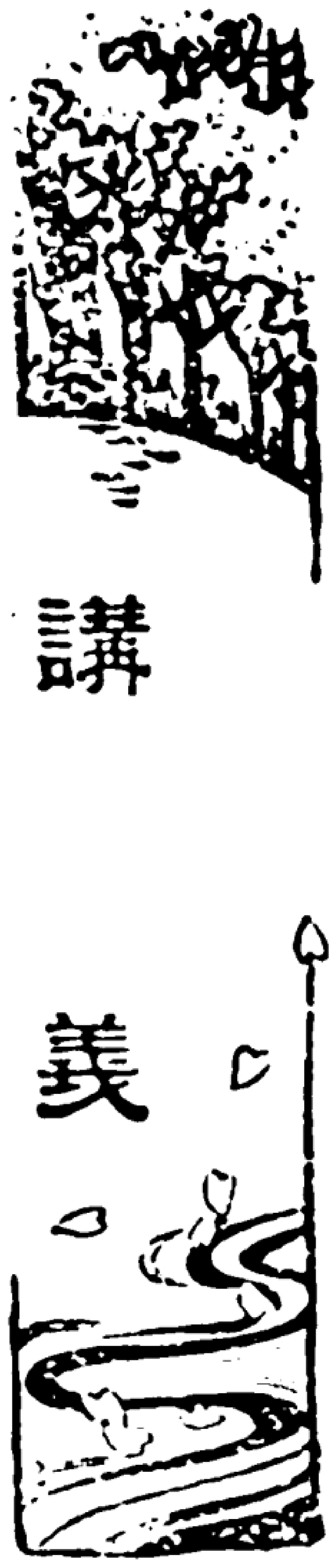
君は今駒形あたりほとゝぎす　　高尾

鍋炭の流れ耻づかし燕子花　　千代

風は風雪には雪の柳かな　その
奥底の知れぬ寒さや海の音　哥川

いかに是等の俳句が女子の性格を表はして一種の感に打たるゝでは有りませぬか

ことに婦人が優艶なる容貌を以て内に在りては夫に見えて其日の心勞を喜ばしめ、外に在りては社交上まめやかに處するといふ事になれば生涯を通じて最も愉快に美の享樂を得るであらふと思ひます、とりも直さず最も高尚なる婦人本能の性格を完うするに一致するであらうと思ひます




# 衛生學大要（前承）

醫學士　河野衛君述

## 人工換氣法

一番簡單なのは室は窓を開けて外の空氣を入れ、室内の空氣を逐い出すのであります、此れには、一方の窓を開けるよりも兩側の窓を開けると一層充分に換氣が出來ます、換氣程度は窓の大さと空氣の速度とに關係するものであります、併しながら冬期に此法を行ふときは、室内が冷くなつて、不快であります、その上に吾々の健康を害するやうな事にもなつて來ます。

それから屋背換氣と謂つて、屋背に小さな窓を開けて、換氣させるので、室内の不潔な空氣は溫まつて上の方に出て行き、其の代りに下の方から、新鮮な空氣が入るやうにしてあるのがあります

それから又天井の裏に一方から他方に通ずる管があつて、其中央に孔が開けてあつて、此れが天井に開口して居る、そうすると此管の一方から他方に向つて風が通じて居ると、右の開口から室内の不潔な空氣を吸ひ出します、此仕掛けを「ツォルベルト」氏の裝置と名けます。

それから船に行つて見ると「プレスコップ」と謂つ

て、日本煙管の頭のやうな形をしたものが立つて居ります、此の下の方は船室に通じて居ります、そこて今室內に空氣を送り込まうとするときは、上の方の口を船首の方に向け、室內の不潔空氣を外に逐ひ出さうといふには、之と反對の方に向けて進行するのであります。

是迄申し上げましたのは自然の風力に依つて換氣を營む方法でありますが、今度は機械を動かして室內に空氣を送る方法を申し述べましよう、それは風車を廻はして室內に空氣を送り、或は室內の不潔な空氣を吸ひ出すのであります、そうして其風車を動かすには電氣、水力、蒸氣のやうな種々の動力を利用致します。

冬期に於て溫い空氣を以て換氣を行ふには、天井の近傍の口から溫い空氣を送入し、室內空氣の出て行く口は、下の方に設けて、床の近傍に備へるのであります、是れは暖い空氣は輕いものでありますから、先づ室の上部に集まり、漸々と下の方に集まり、汚穢となつた室內空氣は比較的冷くて、下の方から出て行く事が出來るからであります、もし反對に下の方から暖い新鮮空氣を入れると、直に上に昇つて、外の方へ出て了ひまして、汚穢な空氣の半分は其儘に下方に溜るから、いけませぬ、それで上の方から空氣を送り入れ、下の方から不潔空氣が出て行くやうにしてあります、然るに夏に於きましては、是れと趣を異にしまして、夏は冷い空氣を送り込むのでありますからして、室內空氣の出て行く口は天井の近傍に設け下の方から冷い空氣を送るのであります、是れは、汚穢となつた空氣は冷い空氣よりも輕いから、段々上の方へ昇つて孔から外に出ますが、冷い空氣は重いから、下の方から入れると、先づ下部に集まり、次第に上の方に及びますから、完全に換氣が行はれるからであります、所がもしも冷い新鮮空氣は上の方から送り入れるときは直に下の方へ下つて、下から出て行き、不潔空氣は上の方に集まつて、換氣が充分に行はれませぬ、そ

れて夏は下の方から、冷い空氣を入れ、上の方から不潔な空氣を出すやうにするのてあります。其他室内換氣の方法は種々ありますけれども茲ては詳說いたしませぬ。

夏は暑いから、戸障子をヨク開け放つてありますから、日本家屋ては換氣に不充分なやうな事は先づありませぬけれ共、冬は寒いものてすから、自然戸障子を締め切る傾きがあります、その上火鉢煖爐杯を用ゐますからして、室内空氣は大變に不潔になります、それ故に冬期は殊に室内の換氣といふ事に注意しなければなりませぬ。

前にも申しましたがコタツの中に入つて寢るといふ事は極めて惡い事てあります、炭の燃燒の爲めに室内空氣が大變に不潔になり、殊に夜分は戸を開けるといふ事はありませぬから、人の呼吸の上に此燃燒產物が加はり、室内空氣は非常に不潔になりますその上夜中にもしも火がきえるやうな事てもあると忽ち感冒に罹ります、それ故にコタツは是非全廢しなければならぬものてあります。

それから序に申しますが、夜分ランプを燈した儘、て寢るといふ事も極めて惡い事てあります、是れも同じく燃燒產物を出しまして、室内空氣が汚穢にせられ、空氣が乾燥しますから、殊に鼻加多兒咽喉加多兒、氣管枝炎のやうな呼吸器道の病氣に罹つて居る場合には甚だ有害てあります。

室内の換氣を充分にし、溫度を常に平均に保ち、急劇の變化の無いやうにするといふ事は健康體にも必要な事てありまするが、特に病者就中小兒の呼吸器病には甚だ大切な事てあります、小兒の肺炎、氣管枝加多兒、百日咳といふやうな病の時には、室内換氣、新鮮な空氣を吸はしめて、溫暖な室内に置くといふ事は病の治療上誠に肝要な事柄てあります少しても溫度の變化があると、折角治りかけて居たものが、又々あともどりをするといふ事は、吾々の日常見る所てあります、百日咳を治す時には、轉室療法と謂つて、病人に充てる室を二つ定めて置いて

一つの室は日中盛に換氣して、新鮮な空氣を入れ、適當な溫度を保ち、夜になつたら、病兒を此室に移し、日中居た室は、夜の間に充分換氣して、翌朝になつたら、此室に移し、又他の室は日の中に換氣をして、夜此所に病兒を移すといふ風に、出來得る限り新鮮空氣の中に居らしむるといふ方法があります是れは大層効能のある方法の一つであります、小供の皮膚なり、呼吸器道の粘膜は甚だ弱くて、抵抗力が微弱でありますから、冬になつたら、氣管枝加多兒、肺炎杯にヨク罹るものでありますから、別して小兒の居室には換氣と溫度といふ事に注意しなければなりませぬ。

以上室内換氣の御話しを致しましたから、是れから

## 衣服

の御話しを致しましよう、衣服の事を申し述ぶる前に先づ

人の體溫　の事を少しく述べて置きましよう、人の體溫は、北極のやうな極く寒い所でも、赤道直下の如き暑い所でも、大した相違のあるものでは無くして、〇、一度も差のあるものではありませぬ、通常體溫を計るのは腋窩で計るのでありまして、三十六度五分から、三十七度五分、まづ大人は通常三十七度を以て常溫としてあります、それから醫者は此外に肛門て體溫を計る事があります、是れは體溫計をば肛門の中に挿し込んで其溫度を見るのであります、茲では、少し高くて三十八度から、三十八度五分位あります、それで人の體溫が甚しく昇つたり、ひどく低下した場合には、生命を奪はれます、大抵四十一度五分以上或は零下二十六度以下に降れば人は死んで了ひます、それで體溫といふものは、身體内に起る化學の作用て起るのでありまして、食物を取つて、此の爲めに生ずる燃燒作用て熱を生じ、それから身體運動の爲めにも溫熱を發生するものであります、そうして其發生した溫熱を又種々の方法で失はれるものであります、それを三通りの方法で失はれ

ます、その一つを放散に依つて體温が失はれる、その二は蒸發その三は傳導此三つてあります。
さて人が一日に發生する温は中々に多いものであります、それて放散て以て體温を失ふといふのは、温を持つて居る物體が、己れより温度の低いものに熱を與へて、自己の温を減ずるのを指すのてありまして、通常放散て體温を失ふといふ事は、之を感じませぬけれ共、時としては之を感ずる事があります、例へば火鉢や煖爐て温めてある室の中に這入つて來ると、温く感ずるけれ共、壁の近傍に居ると大層冷く感じます、是れは壁が室内空氣と同じ温度て無いからてありまして、此冷い壁に體温が取られますから之を感ずるのてあります、それから又一方ては、己れの體温を放散て失ふ事の出來ぬ場合にも不快を感じます、例へば一室に多數の人が居る場合には、隣りの人に己れの體温を與へる事が出來ませぬから不快に感じます、それて夏は冷い物に觸れると爽快に感じます、森林抔に行くと心持の良いのは此の爲めてあります尤も此場合には、森の空氣温度が低い譯てはありませぬけれ共、樹木は温度が低うありますから、放散て以て、此れに體温を取られるのてあります、即ち樹木の温度も十二度から十五度位てあります、その次に傳導て體温を失ふといふのは、吾々を取り巻いて居る空氣又は物體に觸れて温を與へるのを指すのてあります、普通の室温ては、足の方から温まつた空氣は上體の方に昇つて來て、上體を温めます、それて空氣の温度が低ければ低い程、それから氣通の速度が大なれば、大なる丈け傳導て體温を失ふ事は大きくなつて來ます、これて夏は風に當ると爽快に感じます、是れは風が傳導て以て體温を奪ひ去るからてあります、空氣よりも水の方が傳導て熱を奪ふ事が大きくありますから、冷水浴は體温を取る事が甚だ強いものてあります、それ故に零度の空氣には堪へられますけれ共、零度の水には堪える事は出來ませぬ、その次には蒸發て體温を取られる事を御話し申ますと、一體水が蒸發する時には

温熱を奪つて行くものであります、人は九百瓦の水分を蒸發するものでありますが、此九百瓦の水を蒸氣にするには五十萬四千「カロリー」の熱を要するものであります、それて蒸發の爲めに失ふ温度も中々大きいものであります、それて乾いた暑い空氣に當ると蒸發の爲めに失ふ温は多くなりまして、發汗の爲めに失ふ熱量は二三倍になります。

そこて人の體温をウマク調節して行くのは皮膚の働きてありますけれ共、固より皮膚ばかりては不充分てありますから、衣服を以て此れを助けるのてあります、それて是れから衣服の話しに移りましよう

## 衣服

衣服は主として、體温の調節を目的とするものでありまして、その外には皮膚にある垢を取り、或は外から、諸般の作用例へば外傷のやうなものに當らないやうに、身體を保護し、そうして身體を包んて、醜體を露はさぬやうに、人の美を保つ役目を持つて居るものであります。

吾々を取巻いて居る四周の温度といふものは、絶えず變化するものでありまして、身體に發生した温は、常に外氣に奪はれますから、皮膚固有の體温調節力の外に、吾々は衣服を着けて、外氣に對し、體温を調節して行く工夫をしなければなりませぬ、すなはち吾々は裸體の儘ては體温を調節する事は出來ませぬ、けれ共夏期て、氣温二十六度位てありますると、裸體て居ても、ヨク體温が調節せられまして身體の温が外氣に奪はれるやうな事はありませぬけれ共、此れより以下の温度ては、到底裸體の儘て體温の調節は出來ませぬ、吾々は身體を勞働して、多食すると隨て熱を發生しまして、奪はれた温の一部分と補ふ事が出來ぬ事はありませぬけれ共、外氣の温度が段々と下つて來ると、とても之を補ふて行く事は出來ませぬ。

そこて衣服の主なる役目は、體温を奪はれるのを防ぐのでありまするが、外氣の温といふものは、時に依つて差異の著しいものでありますから、氣温

に依つて、衣服も異なるのであります、衣服といふものは、單に流行、裝飾の目的ではなくして、人の健康を維持する目的のものでありますから、諸般の點に注意して、造らければなりせぬ。

そこで體溫は、衣服を通つて表面に去り、一部分は衣服の中に止まり、又衣服と身體との間に空氣があり、衣服の中にも空氣が含まれてあります、此等の空氣は外氣とは無關係に、一定の溫を保つて居るものであります、體溫は傳導や放散で以て、外に奪はれるものでありまするが、衣服を着けると、之れを防ぐのであります、それで人が十五度の室溫の所に居て、裸體の皮膚から、外に取られる溫を百とすれば、毛織を一枚着ると七十三に減じ、麻布を重ねると六十となり、上衣を加へると、三十三に減じて來る、完全に衣服を着ると、三分の一に減ずるのであります、衣服に用ゆる物質は種々ありまして、溫を保ち、溫の奪はれるのを防ぐ力は、物質に依つて夫々相違があります。

そこで衣服の材料になるものは、動物、植物から取るものでありまして、主なるものは、毛糸、絹糸麻と、それから木綿とであります、斯ういふものを織つて衣服に造るのでありますが、一種の糸から造るものもあれば、或は二種の糸と混じて織るのもあつて、色々あります、そうして此等の絲は、顯微鏡で見たり、化學的に調べて見たりすれば、チヤンと何であるといふ區別が分るものでありまするが、其詳しい事は玆では申し上げませぬ。

衣服を着けると、皮膚と衣服との間に空氣があつて、玆て謂はゞ人爲的に、身體に適當な季候を造る譯でありますから、身體溫の奪はれるのを防ぎます是れは前に申し述べましたやうに、體溫の放散を減じ、並に傳導を防ぐのであります、放散といふのは高い溫の所から、低い溫の方に溫が取られて行くのを謂ふのでありまして、其溫の取られる度は、兩方の溫度の差を比例するものでありますから、此差が大きいときは、溫が放散て奪はれる事が甚しうな

ります、そこで衣服の表面は、皮膚の表面よりは、溫が低うありますからして、衣服の表面の溫と外氣の溫との差は、皮膚面と外氣との溫の差よりも少さうあります故に、衣服は、皮膚の溫が放散するのを防ぐ力を持つて居るのであります、皮膚の溫度は裸體であると二十七度から三十二度位でありますが、之に毛織の下着を着ると、二十八度五分となり、之に麻衣を重ぬれば二十四度八分となります、それ故に、衣服を重ぬれば表面の溫度が低くなつて來ますからして、隨て溫の放散する事が減じて來ますから溫く感ずるのであります、衣服は、外氣に對して體溫の奪はれるのを防ぎ、冷い空氣や、種々な物體が直接に觸れて、傳導て以て體溫の奪はれるのを防ぐものでありますけれ共、衣服自己も、體溫を導き取るものであります、その度は織物の種類に依つて差異があります、原料には何を用ゐても、大した差はありませぬけれ共、織り目の中に空氣を多量に含む事の出來るものは、溫を傳導して、奪ふ事が尠うあります、毛織物は傳導力が一般に少いけれ共、絹麻のやうなものは、體溫を傳導する事が强うあります、革製の手袋は冷いけれ共、毛織のものは溫いといふのは、革は傳導力が大きくて、毛は小さいからであります、それて體溫を傳導しない品を衣て溫かでありますが、傳導する物質は、溫か味が尠うあります、同じ綿でも堅く押へてあると、空氣を含む事が尠うありますから保溫の作用が弱いけれ共、フワフワして居るものであると綿の質の中に、空氣が多量に含まれますから、溫かくあります、それで布團杯ては澤山の綿を入れた厚いものよりも、綿を少し入れて、薄いのを重ねた方が餘程暖かであります永く用ゐた布團は日光にあてゝ乾かすと、フワフワになつて、中に空氣が多量に含まれますから、暖かになります、フランネルでも、新しい方が、古い方よりも餘程暖かであります、度々洗濯したものは、縮んで薄くなりまして、物質の中に空氣を含む事が尠くなりますから、着ても暖かくありませぬ、それ

から空氣の通過しない物質は、冷うあります、即ち保溫の作用が弱くあります、それ故に冬期の衣服は可成空氣を多く含む事の出來る物質で造るのが宜しうあります、そこで是れから

### 衣服の通氣度

といふ事を御話し申しましやう、通氣といふ事は、衣服の中に瓦斯體が出入する事を言ふのであります例へば吾々の身體からは、新陳代謝の爲めに、絶えず水蒸氣、炭酸のやうな瓦斯體が發生しますが、衣服に通氣性があると、此等の瓦斯は衣服を經て、外に出て行きます、もしも衣服に通氣性といふものが無かつたら、此等の有害瓦斯は、衣服と皮膚との間に溜りますから、非常に不快である譯であります、此時には、水蒸氣の發散が妨げられ、衣服と皮膚の間の空氣が不潔になるからであります、それから衣服に通氣性があると、今申し述べましたやうに、有害瓦斯が出て行きまして、外からは、寒冷な空氣が入つて來ますからして、保溫といふ點から言ふと、多少の損はありますけれ共、通氣性の無い場合の損害とは比較になりませぬ、それ故に此衣服の通氣度といふものは、衛生上甚だ大切なものであります人間には衣服といふものがあります通り動物には毛羽があります、此羽毛の中にも、空氣を含んで居りますから、是れて體溫を保つて行きます、それて或人は此れに護謨を付けて、空氣の入らないやうにしたらば、其動物は死んだといふ事であります、是れは通氣か妨げられたからであります、それから水の通らない品も同じく堪えられませぬ、此れも通氣を妨げるからであります、フランネル、絹、木綿抔は乾いて居ると空氣がヨク通りますけれ共、濕つて水を吸ふ時は、水が氣孔の中に入つて空氣の通るのを妨げますから、害があります、衣服は雨の爲めにも濕れますが、又汗や皮脂といつて、皮膚にある皮脂腺から分泌する物質の爲めにも濕るものでありますそうして衣服が濕つて居ると、此水分が蒸發する時に、體溫を奪ひます、此度はフランネル、麻、木綿

に依つて差があります、フランネルや毛織類は水分を取るのも徐々でありまして、又水分の蒸發するのも遲うあります、濕つた衣服は傳導と蒸發とて人の體温を奪ひます、そこで雨にぬれたり、河に落ちたりすると、非常に體温を奪はれますから、寒冒、腎臟病リユウマチスといふやうな病氣に罹る事があります、要するに衣服の通氣といふ事は甚だ大切なものでありまして、此れは衣服に供する布片の毛孔と厚さとに關係するものでありまして、氣孔が大きければ通氣は佳良でありますけれ共、厚い布片であると、氣通が不良になります、又濕つて水が入ると氣通が不良になるものであります、是れから衣服の濕潤に就て今少しく申し述べましよう。（以下次號）



## 質疑

●問、拜啓陳者、乍御手數、左の質問御答へ下されたく候。毛類と羽類とは、衣服の中に入れて、何れが暖かなるか、羽類にても、眞綿や綿よりも暖かなりや否や、質疑欄にて御教導奉願上候

會員　すみれ女史

●答、毛類と申しました處で、動物の種類によつて毛の性質が様々でありますから、一様には申されませんが、兎に角羊毛は柔軟で、毛と毛とのなじみが宜しいから、毛類中暖かいもの丶第一であります。處で羽類はと申しますと、概してそれより暖かい様であります。暖かいとか冷いとかいふ事は吾々の感覺による事でありまして、何方が何れほど暖かいかといふやうな事を、斯ういふ漠然とし

た品物に就て明白に定めるのは困難てあります、又一つの方が他方より暖かてあるといふ様な事は多くの日常の經驗によつて知られたので、理屈は後から付けられたものてあります。そこて、多數の人の經驗上、羽は毛よりも暖かだと申します。元來、中に空氣を多量に含んて、しかもその空氣が、自由自在に外部の空氣と交換しない様なものは、理論上暖かい筈になつて居るが、羽は、其一つ〳〵の構造の上から見ても、空氣を保つに非常に都合がよく出來て居る、殊にこれを蒲團などに入れた時は、ブク〳〵として、如何にも内部に空氣の充分な事が分る、毛も澤山集まつて居れば、これに似た作用はあるけれども、羽類には及ばないのてあります。又實地に經驗して居る人の話ては、毛は蒲團の中で、コロ〳〵と固まつて、工合がわるいと云ふ事てあります。話は蒲團の事になりましたが、衣服ても同樣な理屈が行はれる筈てあります

眞綿は彈力性のある、柔かな綿てありまして、相集つた處は、甚だしく空氣を保つに都合がよいのてある、これが、同量の羽類と比較して、何れが暖かいかは、一寸斷定し難いが、衣服の中に入れるとしたら、眞綿の方が慥かに心地よいてありませう。

普通の花綿に至つては、云ふまてもなく、羽類に及ばぬ事てあります

●問　貴會倍々御隆盛之段奉慶賀候陳ば過日胃擴張治療法に付き御指揮を仰ぎ候處早速詳細御指示を辱ふし感謝の至りに存し奉り候次に妾事數年來肥厚性鼻肉炎に罹り困難致し居り候に付き一昨年外科的の手術を受け候へども遂に不結果に終り相變らず困り入り候右奏功確實なる治療方法無之ものに候哉場合に依れば出京の上治療を受け度候間斬新なる療法及び適當なる病院等御教示に預り度豫て御依賴申上度先は御禮旁 如斯に御座候敬具

●答　肥厚性鼻炎の姑息的治療法は數多あれども何れも確實ならず其の根治的療法は只手術に依らざるべからず速かに專門家の治療を仰ぐに如かざるべし、東京にては醫科大學耳鼻咽喉科、神田駿河臺の東京耳鼻咽喉科病院其他專門の病醫院甚だ多し

山形縣　會員　三島　某

問　貴會いよ／＼御盛榮奉賀候、陳者誠に恐れ入り候得ども妾事夏冬とも身體ひへ目まいいたす程のぼせ誠に困り入り候間右治療法有之候ものに御座候哉尚ほ投藥及び平素の食物及び攝生等御敎示下され度幾重にも御願ひ申上候草々

八王子　一會員　某

●答　上昇、眩暈、頭痛、手足の冷への如きものは俗に云ふ「婦人血の道」の徴候となつて來る事なれば格別心配するにも及ばざれども若し他に異狀あらば速かに醫師の診察を乞ひ傍ら勸めて精神を安靜快活に保たれなば足るべし、又日常の攝生及び食養法の大略は前號「貧血症の榮養に就て」を參考せられたし



## 雜報

### ○老人の種痘

武內桂舟畫伯母堂は本年八十一歲の高齡者なるが昨今都下に天然痘流行の折柄家人一同種痘を施したる次手八十の坂を越したる老人豈夫に種痘を施すべき必要もあるまじく又施したりとて到底附着する氣遣ひもあらじとは信じつゝも老人の氣安めホンの形式だけでもと畫伯の勸めにて寄る年の皺腕に左右數ケ所の種痘を施したるに思ひきや一兩日を經て之を檢するに左右とも美事附着して膿を持ち又同畫伯の實姉にて本年五十六才の婦人もその昔し頗る重患の天然痘に罹り痘痕尚あり／＼と存し居るにも拘はらず

矢張同時に種痘を施したるに同じく全部附着したりと云ふ然れば如何なる老人にもせよ又天然痘の實驗ある人たりとも決して油斷して種痘を怠らざるやう注意ありたきものなり

○水痘の流行

天然痘の流行は爾來益々猛烈にして往々種痘濟みの者甚だしきはその善感者まで冒し來り世人が恐怖の度の高まると共に子を持てる親々の心配大方ならざる折柄更に水痘の流行を見るは一入安からぬ有様なり水痘の潜伏期は天然痘と同じく十日乃至二週間なれども熱輕くして發疹の如きも極めて不規則に全身の諸所に生じ紅斑は速に水疱と變じ大さは大小豆粒の如く而して透明水の如き液體は三日目頃より結痂して二週間以内に治癒するが順當の經過なり又其期間も天然痘の如く頭痛、惡寒、大熱（四十度以上）嘔吐、薦骨痛、譫語、痙攣等を發することなく只僅かに發疹前咽喉若しくは腹部の微痛を訴ふる位なれども世の親達は油斷して之が爲め其健康に影響あらしめざる樣注意すべき事にこそ

○二十世紀の新療法

藥物療法は今日では遺憾なく發達して居るが藥物にのみ任すべからざる疾病も亦少くない即ち神經衰弱の如き、腦病の如き、精神病の如き病系は投藥の效驗薄く心理的の療法を行ふの必要がある然るに藥物療法の如き物質的療法の進歩せるに比して精神療法はまだ遍ねく世に行なはれて居らぬいづれ遠からず療病上の新紀元が劃されて心理療法が藥物療法と併び行はるゝ時代があらう獨逸では彼の催眠術などの心理療法は專門家ならざるもこれを患者に施し藥物以上の効果を認めて居るし專門の心理病院も少なからずあるが日本にはまだ完全した設備のものはまだ設けられて居ない下谷龍泉寺町四百十四番地に居住する森下幽堂氏は今回二三の醫學士と共同して心理的療法の專門醫院を起すの計畫があるが氏は目下研究の爲に自宅に於て感應術を以てする療法を試み十中の八九迄は其効驗を認められしより其後屢々神經

衰弱腦病神經痛月經などの患者は兩三回の施術て全快せるに益々其術に對する信向を深くして施術患者は百四十人餘であるが其病の種類は神經衰弱、胃膓、ヒステリー、遺尿症、脊髓病、神經痛など多いが多きも七八回で全快して居る由なるが力士太刀山などもある同力士は胃膓病が痼疾て本場所前に五六回の施術した處忽ち輕快に赴き此場所では非常の活動をした、風月堂主人米津松造氏、千葉松兵衛氏、大竹工學博士などは同じく氏の施術にて多年の痼疾の全快を見たと語つて居る氏が催眠術より一新生面を開いた感應術が神經系諸病に効驗のあるは疑はぬ所てある氏が計畫の心理病院が完全なる設備の下に開院さるゝ事にならば同患者の幸ひなり

## ○齒と唇の美

齒は口の美を添ふるに重大關係を有して居るから平生其手當に注意して齒の排列の惡しきものは齒醫者にかゝり少しにても齒痛みのあるものは砂糖を用ゐし菓子などを多く食べぬ樣に注意せねばならぬ又齒の排列整しからぬ時は音聲が此處より漏れて聞き苦しきものなれば成るべく眞珠を連ねたやうに綺麗にして置かねば可かぬ、それから口を閉ぢた時は上下唇の接合線は微しく曲つて「へ」の字なりになるが「へ」の字の如く彎曲せぬ範圍内にて結局「一」字形と「へ」の字形との中間に位するのを宜としてある又下唇は上唇よりは人目につき易けれど唇の美は上唇に多く存するものて鼻と唇との間が餘りに長いとか餘りに短かいとかは共に美を損するものなれど生れつきならば詮方がない又齒が齦の外に現はるゝのは醜きものてあるから楊子を使ふ時に氣を着けて齦を損せぬやうにするが肝心てす或外國人は斯う言つて居る人の理想の齒は淸水のうちにある眞白な小石のやうな淸く美くしくあらねばならんと其の眞白な小石の樣な齒を造るには毎日良好な齒磨にて齒を磨くのが肝腎てある日本人は概ね朝一度しか齒を磨かぬやうてあるが歐米の注意深き紳士や貴婦人は齒は生命の關門であると云ふ事を常に念頭に心懸

けて居るから非常に大切にして朝起ると磨く食事の度に磨く寝る時に磨く日々乾度五六度は磨くのである美人がニッコリ笑ふ時眞白な美しい齒が見ゆるのは其容貌に一段の光彩を添ゆる齒は顔の美から云うても又身體を健康にする點から見ても必ず大切に保護し大切に磨かねばならん殊に幼少の時から兩親が始終注意して日々二三度は是非磨く習慣をつけて置かねばならんこれさへ實行すれば如何に齲齒の素質ある者でも乾度打勝つて立派な奇麗な眞珠の様な眞白なそして健全な齒を保つに至るべし

### ○貴婦人と種痘

天然痘流行の結果は種痘の厲行となり猫も杓子も二の腕に繃帶してついたつかぬの詮議專らなるがさて此種痘の個處の二の腕と極りしは痘痕を人に見せじの要意なれば緋の長襦袢の袖搔捲りてよくついたてせうとあるそれさへ既に色氣なきに上流婦人の如き夜會服に玉の腕を誇りとすべきを二の腕に痘痕あり〱と現はれ居りてはそれこそ眞個の色消としてこれが爲に天然痘の恐ろしさは知りながら結句種痘の痕をとゞむるに優れりとて其筋の布達は其儘種痘は嫌ぢやとむづかり給ふ貴婦人令嬢もある由なれと假令夜會服を召さるゝとも種痘の痕の人の眼につくが如きは畢竟主事醫の不注意より起れる事にて上膊三稜筋の抵止部即ち肘關節の外方内部と規定しある以上玉の腕の内側へ種えさせ給はゞさる懸念も無用ならんさるにても相撲取、俳優、花柳社會の人々はこれまでも多く規定通りに種え居るにも拘らず貴婦人令嬢が夜會服を召し給ふに心つかて好んで人の見易きところへ種え始めけん種痘に限らずかゝる事は醫師等の注意を要すべきところ只人命を助け得ば能事足れりとするが如きは以ての外の考へなり

### ○三避病院の滿員

都下の天然痘尙ほ猖獗を極め日々發生の患者をばドシ〱本所、駒込、廣尾の三病院に昇込むにぞ昨今既に滿員となり最早一人も入院させることと出來さる始末につき患者は一時自宅に於て交通遮斷の上治療

せしむるの已むを得ざるに至れるがこれにては病毒愈々彌漫の恐あるより急に深川區平久町の埋立地へ百五十餘名を容れ得べき假收容所を建築する事に極るならんと云ふ

# 大日本婦人衛生會記事

## ○本會二月例會

本月一日（土曜日）午後一時半より例の通り神田の共立女子職業學校内に於て例會を開く、先づ富士川ドクトルは『人體及其保護』の續きにて神經系統より說き起されしが今其の睡眠と夢の一節を略記せん。

『睡眠の必要に誰彼の別はないが就中最も必要なるは神經の鋭敏な人、貧血の人、勞働者、而して男に比して女は一時間以上多くの睡眠時間を取らねばならぬ、寢ると言へば直夜間の事と思ふのが普通なれど眠ると云ひ暗いといふ事には何の關係もない明るい場所でも寢れば眠られる西洋には夜の十二時過ぎてから四時間就眠するよりソレ以前に取る二時間の睡眠の方が効果が優つてゐるとの言慣はしがある子供が朝寢するからとて無理に叩き起すは不可い子供の時代は大抵十時間以上眠る事が必要故豫め時間を計つて早く寢ませるが好い、空腹で三日位耐へても別に人體に差支は無いが平生夜の七八時に寢る學校兒童を十一二時頃迄起して置いて翌日其結果を試驗して見ると記憶力が殆ど半減し又六時間遲く寢かせれば百の問題を七十丈了解し得ないとの實驗をしたのは獨逸のワイガント博士である、先づ男女孰れが多く夢を見るかと言ふと男子は百人中五十人なるに女子は百人中七十人だけの割合となるので、女は多く色や悲喜哀樂の感情に關係する夢が多いのに男は此種のものが比較的少い感情に關するのは女子が百人中八十人で男子は五十人に過ぎぬ、夢には智力や意志の現はれる事は極めて稀である總てが感情に關したもので覺めてる時の感情が其儘夢に出て來

る事も無い只屢々繰返さるゝは恐怖の感だ喜悅を度く々夢に見るは男が七人中一人、女が五人中一人の割て同情といふ樣な狀態は男女とも絕えて夢見ぬものである、豫知さるゝ病氣の種類は熱病、腦充血、寄生蟲、呼吸器病、月經の來潮、精神病、眼病其他である例へば熱病ならば火事場に行つた夢、充血、溢血、月經などの時は出血の夢、眼病の時は物象を見る夢等なりし云々』と

次に田代博士は『我邦婦人の步容』てふ題にて『男子の步み方は何の人種も同樣であるが只だ日本婦人のみには內輪と稱する特有の步み方がある、外國では若內輪に步む婦人があれば病的作用であると云つて醫師の治療を受ける事になつてをる、婦人が小足に步むは何れの人種も同一で天性と云つても宜しいけれども內輪や外輪に步むのは決して天性でも何んでもない其證據には五歲以下の女兒は殆んど皆外輪て然も股を廣げて步むからヨタヨタして行く夫れから今でこそ繪畫彫刻人形等何れも內輪になつて居るが玆七十年前即ち歌麿、北齋時代から六七百年前に遡り繪卷物を取調べて見ても內輪のはない思ふに國貞等が初めて內輪に畫いたのであらう、生理解剖上から論ずれば外輪でも內輪でも決して關はないが今日の樣に學校では外輪を奬勵し家庭では內輪でなければならぬ等と矛盾するは至て面白からぬ事で一體から云へば外輪の方が體を支へる上から非常に宜く其證據には重い物を兩手に持て見ると能く分かる事で勢ひ股を廣げなくてはならない、內輪の起因を研究して見ると服裝、下駄、髮のたぼ、作法等の點から來て居るので女子高等師範の佐方教授が作法を敎へる時に足を眞直に出せと云つて居るのを見ると別に內輪に步むのを優美として居ない樣だ、要するに日本婦人の內輪は外國婦人のコルセット支那婦人の纒足と宛然三幅對と云ふ樣な感じがする云々』とて壇を下れり、右二大家の趣味ある講話は傍聽者一同頗ふる感に打たれしもの〻如かりし、當日の聽講者は約百八十餘名にして盛會なりしが、同四時半

閉會せり、又出席せられし役員は左の如しと

石川良子　濱尾作子　長谷川仲子
吉武輝枝子　山本多穗子　岸　澄子
田村喜代子　高木鐵子　濱田拾子
岡田總子　松平芳子の諸氏(出席順)

○本會役員會

去る十日午後二時より役員會を本會の新事務所に開く出席せしは濱尾副會長を始め幹事評議員十數名にして總會及び懇親會の事ども抔協議せられて五時頃散會せられたり

○新潟支會

新年會

一月六日午後一時より當市女子高等小學校に於て當市婦人敎育會帝國婦人協會、新潟支會の三會聯合の上、新年會を開く、出席者約百三十餘名にして、先づ和田くに子夫人には三會を代表せられて開會の辭を述べ、次て來賓數名の祝辭あり、餘興として音樂、講談、遊戯等ありて中々の盛會なりしが同四時頃散會されしと

○山形支會

新年會

一月十日午前十時より千歳館に於て篤志看護婦人會及び愛國婦人會、婦人衛生會合同して新年會を開催す當日は三會合同のことゝて出席者多數にして頗る盛會なり、席定まるや先づ佐柳夫人開會の辭を陳べ次に瀨川衛生技師の有益なる講話ありしが夫より宴會に移れり、餘興として義太夫、福引抔ありて各々歡を盡して午後三時頃散會せり、尚ほ來賓として佐柳亥角の兩事務官、萩警務長、瀨川技師、佐々木遠山坂口古閑穐田姉川友田の各講師にして來會者約百餘名なりしと云ふ

○米澤支會

新年會

一月十二日(第二日曜日)午前九時より當地松岬館に於て新年會を開く當日は好天氣にして出席會員も頗ぶる多く盛會なりしが其の順序左の如し

「オルガン」にて君が代を一同之に和し
(一)開會の辭松山副會長(二)講話、楠川、須貝、關の三君(三)茶菓(四)晝飯等

午後より直ちに餘興に移り

一、蓄音機二、活人畫(正月の遊び)三、劔舞四、活人畫(小督の局)五、同(太田道灌附詩吟)六、劔舞七、活人畫(花賣娘、西洋唱歌)八、同(白虎隊附詩吟)九、劍舞十、活人畫(軍人の遠征附詩吟)十一、蓄音機(數種)十二、雷落し十三、滑稽行列

等なりしが、今此雷落しに當りしもの十數名は種々の面白き扮裝にて會場を一巡せられしが一同喝采の上散會を告げしは午後四時半頃なりしと云ふ

---

## ○高崎支會

### 新年會

一月二十六日(第四日曜日)午前九時三十分より高崎市赤坂町惠德寺に於て新年會を左の順序により開會出席者百三十餘名頗る盛會を極め午後四時三十分閉會せり

### 順序

一、開會の辭　星野支會長
二、君か代(オルガン)　會員一同
三、御令旨捧讀　相川副會長
四、豆の滋養に就て　星野講師
五、壯丁の體格と職業の關係　倉林軍醫
六、謡曲
七、茶菓晝食
八、彈琴
九、落語、茶番狂言
十、會員諸姉に望む　相川副會長
十一、福引

來賓としては本會の爲め常に盡力せらるゝ星野葆光、小林春造、樋口堅吉、塚越正六、庄司軍醫正、本多憲、阪東日報社員、上野日々新聞社員高橋友齋、小林茂の諸氏主人側として最も斡旋の勞を執られしは星野支會長、相川副會長、天利、齋藤、長谷川、三橋、佐藤、村岡の各幹事藥谷、相川、高草木、淸水、渡邊、本多相、澤の各評議員及び土谷、秋田の兩特別贊成員等なりし

### 當日の寄附者

一金壹圓　財津いく子　一金壹圓　津久井省己君
一金壹圓　高草木かね子　一金壹圓　吉村ゑい子

一金壹圓　土谷百子　一金壹圓　清水かれ子
一金壹圓　篠原巳和子　一金壹圓　松尾光子
一金參拾錢　中村壽々子
一金壹圓　小林かつ子　牧野いく子　五十嵐ゑい子　小池ぶん子
藤巻きよし子　長谷川つる子　永井千代子　佐藤みよ子

## ○本會入會者

○事務所申込
●神田區仲猿樂町六　通常會員　金子しゑ子
●神田區須田町二十二　通常會員　三好こう子
●神田區新銀町十九佐野方　通常會員　齋藤せい子
●淺草區小島町四十八　通常會員　石川すみ子
●下谷區仲徒町六十五　通常會員　石橋よし子
○横井忠國氏紹介
●臺南測候所長官舍　通常會員　遠藤隆子
●臺南衛戍病院官舍　通常會員　岩淵なを子
○小野せき子紹介
●本郷區弓町二ノ九櫻井方　通常會員　伊藤まさ子
○石川貞子紹介
●　通常會員　末廣小金子
○山梨識子紹介
●千葉縣千葉郡幕張町齋藤方　通常會員　衣川雅樂子
○青戸咲子紹介
●牛込區市ケ谷仲ノ町五八　通常會員　土岐栲子

## ○資格變更

●特別ニ改ム　通常會員　橋本くら子

## ○茨城支會入會者

●　通常會員　川島さよ子
●　通常會員　菊池くり子

## ○新潟支會入會者

○幹事和田くに子紹介
●新潟市　特別會員　林茂子

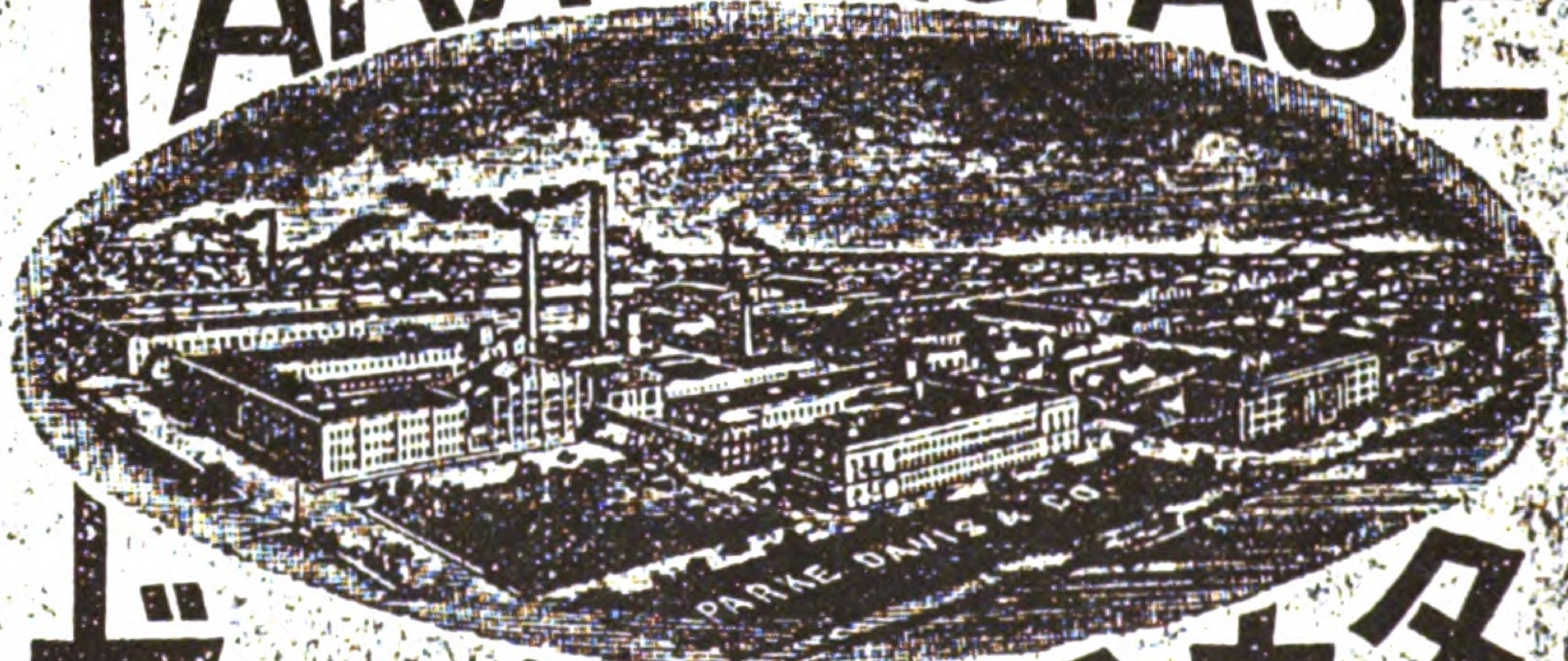
## ○山形支會入會者

○國井幹事紹介
●　特別會員　五十嵐としゑ子
○畔柳きぬ子紹介
●　通常會員　佐藤みつ子
●　通常會員　中村とき子
●　通常會員　高橋ます子

## ○轉居

●呉市東本通一ノ二十八へ　天野ちゑ子
●京橋區三十間堀一ノ二へ　岡崎房子
●伊豫國越智郡四坂島へ　梶浦のぶ子
●牛込區河田町十一へ　等々力うた子
●大阪市北區菅原町六十五へ　小野文子
●鳥取市中町四十九へ　千葉あや子
●韓國京城西大門鐵道官舍第五十六へ　富田たま子
●神田區小川町六十へ　丹治春子
●牛込區築土八幡町二十六へ　神山まさ子
●京橋區山下町十四へ　佐川こと子
●麹町區飯田町三ノ二十九へ　高木くら子
●京橋區木挽町九ノ十五へ　高橋清子
●下谷區櫻木町二、十九へ　横内友子
●麻布區竹谷町二　町田まつ子
●京橋區三十間堀一丁目　貝崎ふる子
●麻布區市兵衛町二ノ十三　菅豐子
●芝區高輪南町五十九へ　仁禮壽賀子
●麻布區東町二十四へ　藤岡智努子

# TAKA-DIASTASE




# タカヂアスターゼ

**世界最大の製藥工場**

パークデビス社は完全なる設備を有する世界最大の製藥會社にして、上圖は其デトロイトに於ける本社工場の全景なり。此他同社は加奈陀及英國に同一規模の分工場を有し、世界の醫家が要求せらるゝ總ての醫藥品を製造す。

**高峯氏發見消化劑**

タカヂアスターゼはパークデビス社の製品なり。完備せる裝置の下に熟練なる技術者に依り、製出せらるゝ本劑は品質純良、毎瓶强度均一にして、又其効力永久不變なり。醫師及藥舖諸彥！模造品製造者の誇大なる虛僞的廣告に誤らるゝ勿れ、世上本劑以上の實品なきは歐米及吾多數醫學大家の實驗報告に徵し確認せらるべし、需用者は必らず高峯氏タカヂアスターゼと指定せられよ、本劑は粉末錠劑水劑の三種として發賣せり各地藥舖にて販賣す

代理店 東京南茅場町 三共藥品合資會社

（後付の一）

# 私立大日本婦人衞生會 米澤支會規則

第一條 當會は私立大日本婦人衞生會米澤支會と稱し衞生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を增進するにあり

第二條 支會事務所は當時假に免許町一三六九番地 猪股方に置く

第三條 當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く 其任期は各一年とす

第四條 每月一回(第二日曜午後一時より四時迄)講話會を開き每年五月總會をなし役員改撰庶務會計等の報告をなす

第五條 入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に屆出べし

但し已納の會費は返附せず

第六條 當支會の會費は左の三種として 特別會員每月金參拾錢迄常會員甲每月金拾五錢乙每月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條 會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條 會員及員外篤志者より金品の寄贈あるときは 役員協議の上特待員又は贊成員となすべし

第九條 講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條 支會々員は質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條 特に支會則に掲げざるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

# 私立大日本婦人衞生會 高崎支會規則(明治三十五年四月創立)

●第一條 當支會は大日本婦人衞生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條 當支會は大日本婦人衞生會高崎支會と稱し事務所を高崎市脇居町五十番地に置く●第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三箇月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條 當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす●第六條 當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條 支會に左の役員を置く 會長一名 副會長一名 幹事六名 評議員十二名●第八條 役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す 又幹事評議員は役員中より會長之を指名す 但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條 本會の特別贊成員を定員外の評議員とす●第十條 當支會は每月一回講話會を開き每年一回總會を開くものとす 總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條 會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列するを得 但時宜により男子の參列は謝絕することあるべし●第十二條 本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條 總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす 但三ヶ月分以上宛前納すべし●第十四條 支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條 會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條 本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは 衆議に諮るものとす●第十七條 會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條 特に此規則に掲げざる者は本會の規則を準用す

●事務所 高崎市脇合町五十番地

高崎支會

私立大日本婦人衛生會

# 新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に協し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓特別會員毎月金參拾錢通常會員仝金貳拾錢支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條 入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條 會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條 會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善費金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ケ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演説をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時物品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の賛助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戸中村しげ子方

新潟支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

# 私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し

○通常會員章
第三號　メッキ製拾貳錢、送費六錢

○第二號　正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章
第一號　七拾錢（黒塗箱入送費九錢）
六拾錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

## ○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在ハ郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介下され候御方へは其人數丈の本會雜誌進呈

廣告料　一頁五四半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾四半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

發行所　東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地
私立大日本婦人衛生會
（振替貯金口座一〇六〇〇番）

編輯兼發行者　東京市下谷區竹町五番地
齋藤清之丞

印刷者　東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
飯田三千太郎

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
株式會社秀英舍第一工場

明治四十一年二月十六日印刷
仝　年二月二十日發行　（毎月一回二十日發行）
婦人衛生雜誌第二百十九號